

ISSN 0389-8105

# 大阪市立自然史博物館館報

30

(平成16年度)

〒546-0034 大阪市東住吉区長居公園1番23号

大阪市立自然史博物館

平成18年3月31日発行



# 目 次

---

展 覧 事 業 .....	3
調 査 研 究 事 業 .....	9
資 料 収 集 保 管 事 業 .....	16
普 及 教 育 事 業 .....	25
そ の 他 の 事 業 .....	35
庶 務 .....	37

---



# 展 覧 事 業

自然史博物館の展示は、常設展示を主体とし、特別展示、特別陳列が、これを補っている。平成13年4月に「花と緑と自然の情報センター（略称；情報センター）」がオープンしたことで、常設展示は、旧来の博物館建物（以下本館）だけでなく、情報センター1階にも増設され、特別展示は情報センター2階のネイチャーホールで開催されることとなった。

## I. 常設展

常設展示は「自然と人間」を基本テーマとし、具体的で身近な自然現象から出発し、分野的、地理的に、そして歴史的にも視野を広げることによって、人と自然とのかかわりをも含めた自然界の法則性に至ろうとする考えのもとで展開されている。したがって、本館の展示は、一つのストーリーに従って組み立てられている。

本館入口のオリエンテーション・ホールでは、上記の基本テーマに基づき、自然史博物館の展示のねらい、すなわち、私たち人間が、どのように自然とかかわってきたのか、そしてこれから、どう自然とつきあっていけばよいのか、ということ、を、象徴的に展示している。

第1展示室「大阪の自然」と第2展示室「地球と生命の歴史」では、身近な大阪の自然から出発して、その歴史を地球の誕生まで遡り、第3展示室「生物の進化」では、その地球上のさまざまな環境において、生物は、他の生物と関わりを持ちながら、常に進化し分布を広げようとしてきたし、今もそうであることを、述べている。そして第4展示室「自然のめぐみ」では、その生物進化の結果である、豊かな自然のめぐみについて展示し、その自然を、未来にも残さねばならないことを訴えて、締めくくりとしている。

情報センター1階の「大阪の自然誌」展示室は、大阪の自然に関するものはすべて知りたいという市民の要望に応えることをめざしたものである。ここでは、大阪各地域の自然の特徴を地域ごとに解説する展示、大阪で見られる生物や化石の標本をできるだけ網羅するコーナー、そしてパソコンによる大阪の自然に関する情報検索コーナーを設け、多くの市民が大阪の自然について自主的に学ぶことが可能な施設となっている。さらに、従来「普及センター」に開設されていた学芸員による相談コーナーが、情報検索コーナーに隣接した場所にも設けられ、常時、市民の質問に答えられる体制をとっている。

情報センター開設に引き続いて、本館の展示更新が計画

されていたが、諸般の事情により、実行に至っていない。「大阪の自然誌」展示室の展示内容は、本館の展示更新と一体の計画で進められたため、現状ではその一部が本館展示室の内容と重複しており、早急な対策を必要としている。

平成16年度には、下記の展示の更改・補修等を行った。

### ■第3展示室

#### ●「さわれる展示ーナマズ」レプリカ更新

琵琶湖に生息する3種類のナマズを用いて、種分化について解説している。展示物としてはナマズのレプリカを用いており、さわれることができる点は好評であったが、長年の展示により痛みが激しく更新した。

## II. 特別展

特別展示は、地元大阪とその周辺地域の自然誌を紹介したり、学芸員の研究成果を広く市民に還元するという趣旨で、開催してきた。13年度からは、ネイチャーホール新設を契機として、新聞社などが企画する、自然史科学あるいは生命科学に関する展覧会を積極的に誘致し共催することによって、さらに広い分野の展覧会を市民に提供することとしている。館主催特別展のテーマについては、少なくとも数年先までの計画を立てている。

### (1) 当館が主催する特別展

#### 第33回特別展「貝—その魅力とふしぎ—」

貝は、海、淡水、陸上に渡って生息しており、古くから人間にとって身近な生きもので、四方を海に囲まれ南北に長い日本では、諸外国と比べて貝の種類が多く、人々は昔から様々な目的と方法で貝を利用してきた。

ともすれば、貝の殻の美しさに目を奪われがちだが、生きものとしての貝の姿と生活を紹介し、併せて、近年増加している外来の貝や絶滅が危惧されている貝なども



展示し、人間の営みが貝に及ぼしている影響についても考えていただく機会とした。また、貝化石の展示により貝の進化をたどるとともに、食用貝、貝細工、貝遊びなど、人と貝の関わりを紹介した。

同時に、当館が保管する江戸時代の貴重な貝コレクションである「木村兼葎堂（けんかどう）貝石（ばいせき）標本」（大阪府指定有形文化財）を公開した。

- 会 期：平成16年7月17日(土)～9月5日(日)
- 会 場：大阪市立自然史博物館ネイチャーホール
- 主 催：大阪市立自然史博物館・大阪市教育委員会
- 観 覧 料：大人500円、高校生・大学生 400円、前売り券は、同400円、300円、本館入館料(300円)とのセット券は、同700円、500円、中学生以下、障害者の方、大阪市内在住の65歳以上の方は無料。団体割引は通常通り

●展示内容

■展示標本の点数 約1,200点

主な貝標本 世界最大の貝オオジャコ(殻長0.9メートルの巨大標本)、オキナエビス6種(海底にすむ大形の美しい巻貝)、オウムガイ3種、世界のタカラガイ・イモガイ(多数)、ヒオウギガイ・アズマニシキガイの美しい色彩変異、ベレロフォン・リツィテス化石(古生代の原始的な巻貝、頭足類)など。

■展示の構成

【貝とは】 貝のからだのつくりをカタツムリとアサリの大型解剖模型で展示解説。

【さまざまな環境で見られる貝】 陸上、淡水、海岸、干潟、浅海底、深海底などの貝を分類して紹介。

【地球上における貝の進化】 古生代の巻貝(ベレロフォン)、同・頭足類(リツィテス)などの実物化石で貝の進化をたどる。

【貝の鉱物学(生物がつくる鉱物)】 貝殻の部位によって異なる結晶構造を電子顕微鏡写真で展示。

【侵入する貝、見られなくなった貝】 南米原産で稲作に害を与えるジャンボタニシや、近年ほとんどいなくなった日本産のハマグリなど。

【貝そのものを学問する(軟体動物学の最近の進展)】

DNA解析などでわかってきた貝どうしの類縁関係を説明。

【貝と私たち】 貝拾いの楽しさ、蛤による貝合せ、真珠のでき方、貝細工(螺鈿、カメオなど)、貝ボタン、食用貝の実態、遺跡の貝など。

【貝なかまとコレクション】 全国各地の同好会・研究会を紹介。当館所蔵のコレクションの紹介。

■「木村兼葎堂(けんかどう)貝石(ばいせき)標本」(大阪府指定文化財)の修復後初公開

江戸時代中期の大坂が生んだ偉大な本草学者である木村兼葎堂の貝と石の標本。潤(うるみ)漆塗りの重箱(567枀)と縞柿の重箱の中に、源氏貝や歌仙貝など文学にちなんだ貝や、日本にある標本の中では最初にヨーロッパからもたらされたモミジソデという巻貝などを含む貴重な貝類コレクションと、日本各地の貝化石を含む奇石コレクションが収められている。重箱に塗られた漆の剥落や木地の接合部分の剥離が見られたことから、平成15年度に修復を施した。今回は修復後の初公開。(当館所蔵)

■こどもふるぐらむ「貝であそぼう」(ワークショップ)「あなたの貝のびっくりカード!」

会場内から自分で貝を選んでスケッチし、貝の飛び出すカードづくり。

「夏の砂場のミニミニ貝」

海や川の砂の中から小さな貝をさがし、学芸員がそれを同定する。砂を切り口に、貝の住む場所について考える。

「貝の穴、たんでい団」

穴の開いた貝をキーワードに展開(食痕、基石加工のあと、アクセサリ加工のあとなど)。その後、貝にとつての殻の重要性を伝え、穴をあけた貝殻でペンダントづくり。

※会期中の土・日・祝日に会場内の特設コーナーで開催  
1日4回(午前11時、午後1時、午後2時、午後3時30分)

定 員 各回とも先着25名(小学生以上)

プログラムに応じて材料費(50~100円)が必要。

■キッズマップ

小学生には、会場の展示がよくわかる「キッズマップ」を配布した。 ※平日のみ

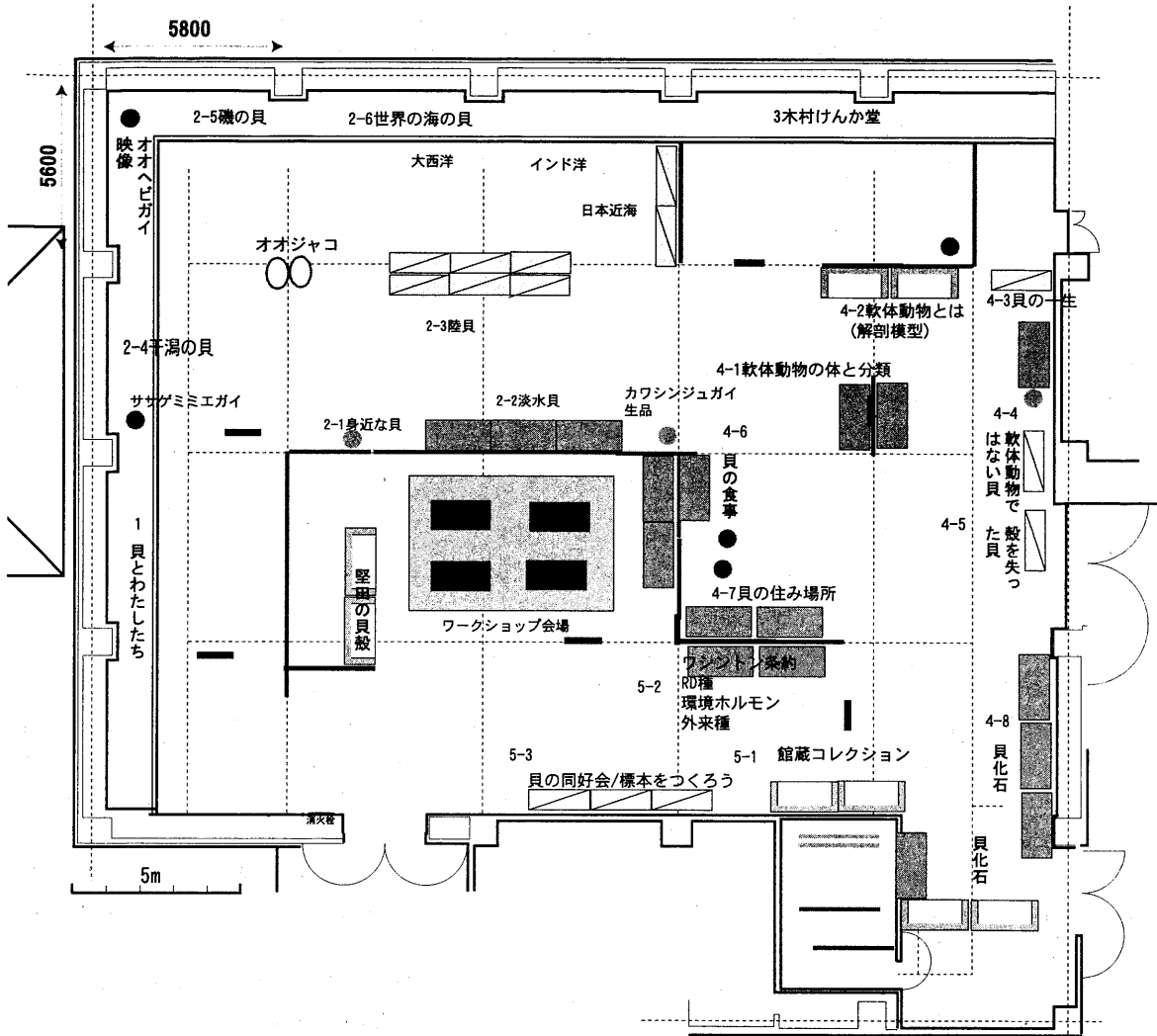
■自然史アート展「貝の絵」

特別展と同時に、自然史アート展を開催し、市民から募集した「貝の絵」を展示した。小中学生の作品が多く出展され、貝標本の背景にも展示した。

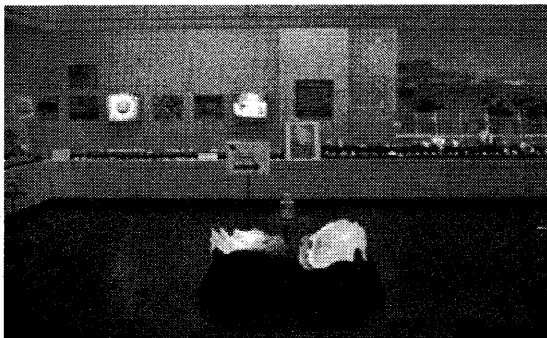
《関連行事》

■特別展普及講演会「貝、その魅力と不思議」

講 師：奥谷喬司氏(日本貝類学会会長)



「貝，その不思議と魅力」展 配置図



日 時：平成16年8月8日（日）

午後1時30分～午後3時30分

内 容：貝の生物学・人との関わり・貝殻の造形美・貝類学の展望など、貝に関する身近なことから研究にいたるまで広い内容をわかりやすく講演。

会 場：自然史博物館講堂（本館1階）

参加費：無料。ただし博物館本館入館料が必要。

■自然史講座

平成16年8月7日（土）午後3時～4時30分

「貝の歴史は6億年」

講 師：石井久夫（第四紀研究室 学芸員）

地球上に軟体動物が出現した前夜から、古生代、中生代、そして新生代へと貝の進化の歴史をたどる。

平成16年9月4日（土）午後3時～4時30分

「貝のさまざま」

講 師：山西良平（動物研究室 学芸員）

特別展「貝—その魅力とふしぎ—」に出品されているさまざまな姿、形、色彩の貝について解説し、生きものとしての貝（軟体動物）の素顔に迫る。

■自然史カレッジ@OCA「貝と地球と私たち」

特別展を企画した学芸員が、その内容を深めていただくために貝をテーマとした連続講座を開催。

日 程：平成16年8月5日から8月26日までの木曜日

（4回連続）

【第1回】8月5日（木）「貝とはどのような生きもの？」

山西良平学芸員

【第2回】8月12日（木）「化石がかたる貝の進化」

石井久夫学芸員

【第3回】8月19日（木）「貝と自然環境」

山西良平学芸員

【第4回】8月26日（木）「貝と私たち—石器時代から現代まで」石井久夫学芸員

※8月8日（日）に特別展見学のオプション。

時 間：午後7時～9時（1時間半の講義と30分の質疑応答）

会 場：大阪市立難波市民学習センター（なんばOCA Tビル4階）

定 員：50名（応募多数の場合は抽選）

受講料：1,000円（テキスト（特別展解説書）および資料代）

(2) 当館が共催した特別展

■「いきもの図鑑—牧野四子吉の世界—」展

牧野四子吉（1900～1987）は生物を対象とした精緻な画風の20世紀の画家で、3万点を超える挿絵を図鑑や事典・辞典に著したことで知られ、そのような挿絵を「生物生態画」という独立した分野にまで高めた功績が高く評価されている。

平成13年に思文閣美術館が初めて牧野四子吉の絵画展を開催して好評を博し、規模を拡大して全国巡回が開始され、2番目の会場として当館で開催した。当館収蔵の生物標本から四子吉の原画のモチーフに関連する標本を出品するなどの独自性を加え、より充実した展覧会を企画した。また、今回の展示では「牧野四子吉の生涯」として画家かつ文化人としての感動的な生き様を紹介するコーナーを設け、子どもたちや一般市民が動植物に関心を抱ききっかけとなり、また、自然・美術の愛好家や読書家など、多くの方にご覧頂ける内容の特別展を企画した。

●会 期 平成16年4月10日（土）～5月30日（日）

●会 場 自然史博物館ネイチャーホール

●主 催 大阪市立自然史博物館・大阪市教育委員会・朝日新聞社

●協 力 思文閣美術館、(有)アトリエ・まきの

●入 場 料 大人800円、高校生・大学生600円（団体割引あり）、前売り券は同600円、400円、本館入館料（300円）とセットの場合は、同600円、400円。

中学生以下、障害者手帳などをお持ちの方、市内在住の65歳以上の方は無料。

●展示内容

<牧野四子吉による生物画>

魚類・水生生物 284点  
両生類・爬虫類 44点

（このうち絶滅動物は2）

鳥類 102点

哺乳類 198点

昆虫類・クモ類 67点

植物 33点

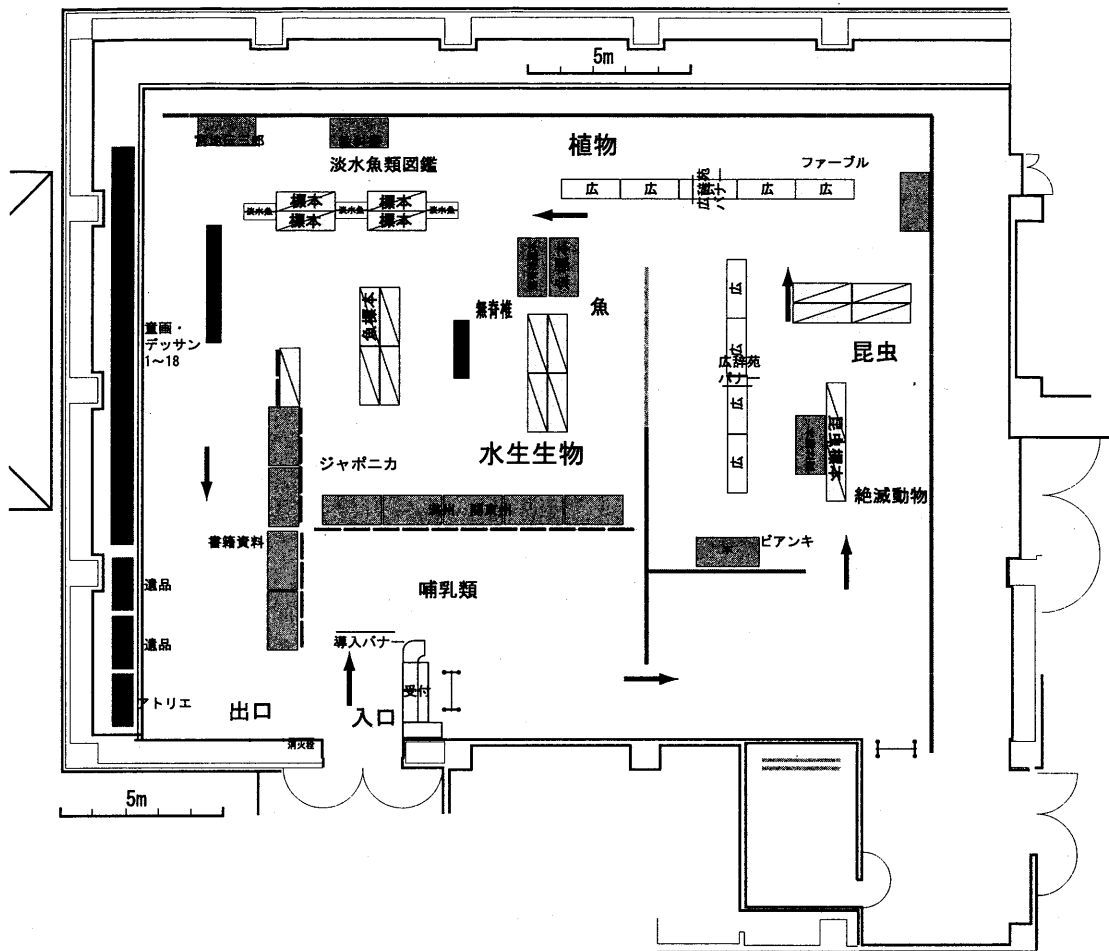
岩波書店発行の広辞苑の挿図 437点

教科書・宮地伝三郎動物記の挿図 32点

<牧野四子吉の生涯>

デッサン・童画・イタリア風景 21点





「いきもの図鑑—牧野四子吉の世界—」展 配置図

アトリエ再現（筆、絵具、定規など）	14点
四子吉の本	101冊
<大阪市立自然史博物館所蔵の実物標本>	
魚類・水生生物	40点
両生類・爬虫類	8点
鳥 類	10点
昆虫類・クモ類	30点
植物	10点
●関連行事	
自然史講座「牧野四子吉と魚類画」	
日 時	5月1日（土）午後3時～4時30分
会 場	自然史博物館 集会室
講 師	波戸岡清峰（動物研究室）
内 容	魚類を専門とする講師の作画経験や、過去の文献に見られる魚類画の比較を交えながら牧野四子吉の魚類画を紹介した。

### Ⅲ. 特別陳列

特別陳列は、特別展と同様な趣旨で行なっているが、より小規模なもの、あるいはテーマを絞ったものであり、市民からの寄贈品・コレクションの紹介も含めて、随時実施している。ただし、16年度には実施していない。

### Ⅳ. 館外での展示

市立図書館・市民学習センターなどの依頼に応じて、小規模な移動展示を行なっている。ただし、16年度には実施していない。

### Ⅴ. 展示関係の出版物・リーフレット・ビデオ

#### ■常設展解説書

##### ●ミニガイドNo. 21「竹筒のハチ」

一般市民向け、A5横版、本文30ページ。平成17年3月発行。

#### ■特別展解説書

##### ●第33回特別展「貝ーその魅力とふしぎー」解説書

一般市民向け、B5判縦版、本文70ページ、カラー図版4ページ。平成16年7月17日発行。700円。

### Ⅵ. 「自然史探検すくらっちクイズ」

自然史博物館は、大阪市内の他の社会教育施設と同様、平成7年より小中学生の入館料を無料としている。このような状況の中で、展示をよく見ることによって、学習効果をいっそう高めることをめざし、平成8年7月より「自然史探検すくらっちクイズ」を、実施してきた。問題のカードは10種類あり各5問となっている。入館時、小中学生に各1枚手渡し、5問中正解4問以上の場合には、絵はがきを記念品として配布している。ただし学校団体での見学は対象外としている。

平成16年7月からは、あらたに低学年（小学1～3年生）向けと、4年生～中学生向けに分け、それぞれ4種類と9種類のカードを配布することとした。

# 調査研究事業

## I. 研究体制

学芸員は、館長を除き全員が学芸課に所属し、5部門の研究室で研究業務に携わっている。

館長 那須孝悌 (Takayoshi Nasu)\*

動物 山西良平 (Ryohei Yamanishi) 研究主幹  
研究室 波戸岡清峰 (Kiyotaka Hatooka) 学芸員  
和田 岳 (Takeshi Wada) 学芸員

昆虫 金沢 至 (Itaru Kanazawa) 主任学芸員  
研究室 初宿成彦 (Shigehiko Shiyake) 学芸員  
松本吏樹郎 (Rikio Matsumoto) 学芸員

植物 岡本素治 (Motoharu Okamoto) 学芸課長  
研究室 佐久間大輔 (Daisuke Sakuma) 学芸員  
内貴章世 (Akiyo Naiki) 学芸員補

地史 樽野博幸 (Hiroyuki Taruno) 研究主幹  
研究室 川端清司 (Kiyoshi Kawabata) 主任学芸員  
塚腰 実 (Minoru Tsukagoshi) 学芸員

第四紀 石井久夫 (Hisao Ishii) 主任学芸員  
研究室 石井陽子 (Yoko Ishii) 学芸員  
中条武司 (Takeshi Nakajo) 学芸員

平成17年3月31日現在

※平成16年11月25日逝去

## II. 個別調査研究

### ■那須孝悌 (館長)

- (1) 長野県野尻湖周辺における後期更新世・完新世の古植生変遷に関する研究 (野尻湖花粉グループの一員として)
- (2) 旧石器の層位攪乱をもたらす最終氷期の乾裂・凍結割れ目の形成機構に関する比較研究

### ■山西良平 (動物研究室)

- (1) 日本産間隙生多毛類の分類学的研究
- (2) 大阪湾沿岸の潮間帯生物相の調査
- (3) 国内の干潟に産する多毛類のフォーナ

### ■波戸岡清峰 (動物研究室)

- (1) ウナギ目魚類の系統分類学的研究
- (2) 大阪湾, 瀬戸内海及びその周辺海域の魚類相の調査
- (3) 大和川流域の淡水魚類相の調査

### ■和田 岳 (動物研究室)

- (1) ヒヨドリの採食生態に関する研究
- (2) 大阪の都市公園の鳥類相の調査
- (3) 大和川下流域及び周辺ため池の水鳥の個体数調査
- (4) 大阪府下の果実食性鳥類と果実との関係についての研究

### ■金沢 至 (昆虫研究室)

- (1) 日本及び東アジア産キバガの系統分類学的研究
- (2) 近畿地方の蛾類記録の整理
- (3) アサギマダラの移動の調査
- (4) アメンボの翅型と越冬の研究
- (5) トガリアメンボの分布拡大の調査

### ■初宿成彦 (昆虫研究室)

- (1) ハナノミ科・オオハナノミ科の分類学的研究
- (2) 新生代の昆虫化石の研究 (遺跡の昆虫遺体も含む)
- (3) 大阪府および周辺の甲虫類の分布調査 (大和川を中心に)
- (4) セミに関する研究 (都市間比較に関する調査)
- (5) 朝鮮半島のタムシに関する調査

### ■松本吏樹郎 (昆虫研究室)

- (1) ヒメバチ科昆虫の寄生習性, 分類, 系統学的研究
- (2) マレーゼトラップによるハチ目昆虫ファウナと季節消長の調査
- (3) 近畿地方におけるハチ目昆虫相の調査

### ■岡本素治 (植物研究室)

- (1) 種子植物の生殖戦略の比較研究
- (2) 3倍体ヤブガラシの起源の研究
- (3) 被子植物の起源と系統に関するレビュー

### ■佐久間大輔 (植物研究室)

- (1) 外生菌根性菌類の生態学的研究
- (2) 丘陵地の生物群集の民俗・生態的研究
- (3) 二次林植物群集の研究
- (4) 菌類インベントリーの手法と体制
- (5) 博物館情報システムの構築

### ■内貴章世 (植物研究室)

- (1) アリドオシ属の分類学的研究
- (2) サツマイナモリの繁殖生態学的研究
- (3) オニクロキの集団遺伝学的研究

■樽野博幸（地史研究室）

- (1) ステゴドン科（長鼻類）の分類と系統に関する研究
- (2) 大阪平野および周辺地域における、鮮新-更新世の古脊椎動物相の変遷と、生層序区分に関する研究。
- (3) 中国産長鼻類に関する研究。
- (4) 長鼻類の足跡化石に関する研究。

■川端清司（地史研究室）

- (1) 四万十帯・日高帯の緑色岩類の産状と構造発達史上の意義に関する研究。
- (2) 白亜紀・古第三紀放射虫化石に関する研究。
- (3) 現生放射虫に関する研究。

■塚腰 実（地史研究室）

- (1) 新生代古植物相の研究
- (2) ヒシ科化石の分類学的研究
- (3) 化石および現生球果の分類学的研究

■石井久夫（第四紀研究室）

- (1) 大阪平野第四紀層産貝化石の古生態と古環境に関する研究
- (2) 長野県野尻湖層産淡水貝化石の研究（野尻湖貝類グループの一員として）
- (3) 干潟に生息する現生貝類の研究

■石井陽子（第四紀研究室）

- (1) 大阪平野の第四系の層序と地質構造に関する研究
- (2) 大阪平野ボーリング試料を用いた中・上部更新統の火山灰層序に関する研究
- (3) 大阪層群の層序に関する研究（泉南・泉北丘陵を対象に）

■中条武司（第四紀研究室）

- (1) デルタ成・浅海成堆積物の堆積過程に関する研究
- (2) 陸域における堆積物重力流の分化過程に関する研究
- (3) 沿岸域の微地形発達と堆積作用に関する研究
- (4) 大和川水系の水質や自然環境に関する研究

III. 研究業績の公表

■当館より発行された刊行物

\*は館外研究者。[No.] は当館業績番号

大阪市立自然史博物館研究報告 (Bulletin of the Osaka Museum of Natural History)

第59号 2005年3月31日 71ページ。

有山啓之\*: 2新種を含むツツヨコエビ属6種について

(甲殻亜門: 端脚目)。1-40. [No. 390] [英文]

松本吏樹郎: エゾフシオナガヒメバチ (膜翅目: ヒメバチ科) の新奇主記録と産卵行動。41-50. [No. 391]

[英文]

木村全邦\*・日出幸啓子\*: 近畿地方におけるジムカデゴケの分布。51-54. [No. 392]

山際延夫\*・藺 彰久\*・栗尾直美\*・吉田三郎\*・宮本淳一\*: 兵庫県淡路島に分布する上部白亜系和泉層群産出の六方サンゴ化石 *Platycyathus* の1種について。55-59. [No. 393]

樽野博幸・石井陽子・塚腰 実・宮下牧三\*: 大阪府和泉市はつが野の大阪層群から産出した前期更新世のシカ類と淡水魚類。61-71. [No. 394]

自然史研究 (Occasional Papers from the Osaka Museum of Natural History) Vol. 3, No. 4

大和川付替え300周年記念シンポジウム「日本の川の自然と大和川」記録集。49-68.

■研究室別報文一覧

当館学芸員以外の共著者には氏名に\*を付した。大阪市立自然史博物館友の会発行の *Nature Study* 誌は、ns. と略記した。同誌の表紙が「ジュニア会員のページ」と一連の内容の場合は、表紙を記事の一部とみなしてページを付し、シリーズ名は省略した。

[動物研究室]

大谷道夫・花岡皆子・山西良平 (2004. 4) 大阪湾における人工護岸の潮下帯付着生物相について(予報)。自然史研究 3 (3): 37-47.

山西良平 (2004. 7) 干潟のウミユナ類。ns. 50 (7): 87-89.

山西良平 (2004. 8) アメフラシ。ns. 50 (8): 97-98.

山西良平 (2004. 12) 河川汽水域から淡水域への移行に伴う潮間帯生物相の変化。関西自然保護機構会誌 26 (2): 97-100.

山西良平 (2004. 12) 淀川汽水域の潮間帯生物の現状。関西自然保護機構会誌 26 (2): 109-111.

波戸岡清峰 (2004. 4) カワムツとヌマムツ。ns. 50 (4): 41-42.

波戸岡清峰 (2004. 4) 四子吉より前にいた日本の生物画家。ns. 50 (4): 56.

波戸岡清峰 (2004. 9) 魚屋分類学。ns. 50 (9): 115-

- 117,124.
- 和田 岳 (分担執筆) (2004. 8) 大阪・まちなか生物図鑑。大阪人, 58 (8)
- 和田 岳 (2005. 3) 川村多実二鳥類コレクション - 旧宝塚昆虫館所蔵鳥類仮剥製標本目録 -。大阪市立自然史博物館収蔵資料目録 No. 37, 65pp.
- [昆虫研究室]
- 金沢 至・大島新一郎\* (2004. 4) 2003年の再捕獲 - 総論にかえて。特集「アサギマダラの北上ルートの解明」昆虫と自然, 39 (5): 4-9
- 金沢 至・藤原直子\* (2004. 4) ミズヒマワリの分布拡大とアサギマダラの北上個体の誘引。特集「アサギマダラの北上ルートの解明」昆虫と自然 39 (5): 26-30
- 金沢 至 (2004. 4) アオスジアゲハ。生きものつながり雑学コーナー。私たちの自然 (495): 13.
- 金沢 至 (2004. 5) 台湾から北上したアサギマダラの確認。ns. 50 (5): 57-58.
- 金沢 至 (2004. 6) オオミノガ。生きものつながり雑学コーナー。私たちの自然 (497): 13.
- 金沢 至 (2004. 6) 白水隆先生への誓い アサギマダラの謎に挑戦しつづけます!。蝶研フィールド 19 (6): 57.
- 金沢 至 (2004. 6) アサギマダラプロジェクトからのお知らせ。やどりが (201): 106-107.
- 金沢 至・長谷川政興\*・山本博子\*・藤原直子\* (2004. 9) アサギマダラの移動と誘引植物 (スナビキソウ・ミズヒマワリ) に関する最近の知見。日本昆虫学会第64回大会 (札幌) 講演要旨: 64.
- 金沢 至 (2004. 12) 8. 電子化推進委員会報告。会記。昆虫ニューシリーズ 7 (4): 206.
- 山本博子\*・永井敦子\*・増田静子\*・金沢圭子\*・金沢 至 (2005. 2) 大和川水系にホソオチョウが定着? ns. 51 (2): 15-17,28.
- 初宿成彦 (2004. 3) 1. 学校・生徒と博物館。TMネットワークの試みと学習パッケージの試作。特定非営利活動法人大阪自然史センター (編), 「学校」・「地域」と自然史博物館~平成14年度文部科学省「科学系博物館教育機能活用事業」の取り組みから~: 4-6.
- 初宿成彦編 (2004. 4) ヴァーチャル座談会 大阪のセミの動向~近年と2003年について。ns. 50 (4): 43-46.
- 初宿成彦・宮武頼夫\* (2004. 6) 原始の森のコーラス隊 ヒメハルゼミをさがそう。ns. 50 (6): 69-70.
- Hayashi, M. & S. Shiyake (2004. 6). A Checklist of the Japanese Members of Donaciinae (Coleoptera: Chrysomelidae). Entomol. Rev. Japan 59 (1): 113-126. Japan Coleopterological Society.
- 初宿成彦 (2004. 7) 地球温暖化の指標生物としてのセミ類に関する研究。2003年度・持続可能な社会と地球環境のための研究助成・成果報告論文集: 44-57. 消費生活研究所。東京.
- 初宿成彦 (2004. 8) 世界一セミの喧しい街=大阪?。大阪人 58 (8): 30-31. 大阪都市協会.
- 初宿成彦・宮武頼夫\* (2004. 9) 都会のセミ相~日韓4都市における種構成の比較~。日本昆虫学会第64回大会 (札幌) 講演要旨.
- 初宿成彦 (2004. 9) NPO西日本自然史系博物館ネットワークの設立。昆虫担当学芸員協議会ニュース.
- 西城 洋\*・初宿成彦 (2004. 11) コセスジゲンゴロウを約60年ぶりに再発見。ねじればね (111): 7-8. 日本甲虫学会.
- 初宿成彦 (2004. 11) 2004年4月例会報告。ねじればね (111): 16. 日本甲虫学会.
- 初宿成彦・畑山武一郎\*・稲畑憲昭\*・斉藤 剛\*・杉浦直人 (2004. 12) 上翅の著しく短いオオハナノミ *Rhipiphorus* 属の日本からの発見。日本甲虫学会2004年度年次大会講演要旨: 6.
- 初宿成彦 (2005. 3) 甲虫から見た河川環境。大和川シンポジウム記録集。自然史研究 3 (4): 54-58. 大阪市立自然史博物館.
- 松本吏樹郎・小西和彦\* (2004) ゴミグモを寄主として利用するコブクモヒメバチの寄生習性および同所的に同じ寄主を利用する隠蔽種の存在 (ヒメバチ科, ヒラタヒメバチ亜科)。日本昆虫学会第64回大会 (北海道) 講演要旨: 68.
- 松本吏樹郎 (2004) ヤガタフクログモをめぐるヒメバチ2種の季節消長と寄生習性。厚岸湖・別寒辺牛湿原学術研究奨励補助制度報告書.
- 平田和彦\*・河上康子\*・松本吏樹郎 (2004. 10) 京都市と八幡市におけるコアシナガバチの記録。ns. 50 (10): 136.
- 松本吏樹郎 (2004. 11) ミノムシとミノムシをめぐる昆虫 ns. 50 (11): 143-147.

〔植物研究室〕

- 岡本素治 (2004. 6) それぞれの虫のそれぞれの生 モチツツジの花をめぐって. ns. 50 (6): 71-74.
- 岡本素治 (2004. 10) 大阪ナチュラリスト列伝 1 ナメクジの目+鳥の目=児玉務. ns. 50 (10): 140.
- 岡本素治 (2005. 3) 春を呼ぶ小さな紅-風媒花の雄しべ. ns. 51 (3): 29-30.
- 佐久間大輔 (2004) 都市の自然. 大阪人. 2004 (8)
- 環瀬戸内地域 (中国・四国地方) 自然史系博物館ネットワーク推進協議会編 (2004) 自然史博物館「地域の自然」の情報拠点. 高陵社, 東京 (佐久間大輔分担執筆)
- 佐久間大輔・深町加津枝・奥敬一・篠沢健太 (2004) 里山の生息地構造はどのように形成されたか? 里山環境の民俗学的・考古学的・生態学的理解を目指して」日本生命財団平成15年度環境問題研究助成報告書

Naiki, A. and Nagamasu, H. (2004. 5) Correlation between distyly and ploidy level in *Damnacanthus* (Rubiaceae). *American Journal of Botany* 91: 664-671.

Naiki, A. and Nagamasu, H. (2004. 8) Unusual flowering shoots in *Damnacanthus* (Rubiaceae). *Acta Phytotaxonomica et Geobotanica* 55: 129-132.

内貴章世 (2004. 10) 「青いケシ」のなかま. ns. 50 (10): 125-126.

内貴章世 (2004. 12) アリドオン属 (アカネ科) における二型花柱性と染色体数. ns. 50 (12): 155-157, 168.

〔地史研究室〕

樽野博幸 (2005. 2) 上町台地西端の崖. ns. 51 (2): 13-14.

樽野博幸 (2005. 3) 第1編自然と風土 第2章地質・地形. 淡路町誌, 18-38. 淡路町.

樽野博幸・石井陽子・塚腰 実・宮下牧三 (2005. 3) 和泉市はつが野の大灰層群から産出したシカ類化石ならびに淡水魚類化石. 大阪市立自然史博物館研究報告, (59): 61-71.

稲田孝司・河村善也・樽野博幸 (2005. 3) 原の辻遺跡下層 (幡鉢川層) の後期更新世哺乳類化石. 原の辻遺跡調査事務所調査報告書第30集「原の辻遺跡 総集編 I」, 213-225.

川端清司 (2004. 8) 貸出キット 大阪の川原の石ころ-博物館での取り組み-. 地学団体研究会第58回川越総会講演要旨, 92-93.

川端清司 (2004. 8) 各地の川原の石紹介-芥川・石川・木津川-. 地学団体研究会第58回川越総会講演要旨:100.

川端清司 (2004. 9) 鉛の色 いろいろ. ns. 50 (9): 113-114.

川端清司 (2005. 1) アメリカ紀行-西海岸の地質と東部の博物館-(その3). ns. 51 (1): 3-5, 12.

塚腰 実 (2004. 6) トウモロコシのひげって何だろう. 世界通信教材学習ニュース, No. 1795.

塚腰 実 (2004. 10) ヒシの果実. ns. 50 (10): 127-129. [第四紀研究室]

石井久夫 (2004. 7) オオシャコガイの化石. ns. 50 (7): 85-86.

大阪市立自然史博物館 (編) (2004. 7) 「貝-その魅力とふしぎ-」第33回特別展解説書. 70 p. (石井久夫分担執筆)

石井久夫 (2004. 8) 新しい移入貝 ホンビノスガイ. ns. 50 (8): 99-101.

石井陽子 (2004. 8) 補記: シカ化石が発見された地層について. ns. 50 (8): 106.

石井陽子 (2004. 12) 光明池 I V 火山灰層のたまり方. ns. 50 (12): 153-154.

中条武司 (2004. 4) 台風・大雨と海岸線への打ち上げゴミの関係. ns. 50 (4): 50.

Kataoka, K\* and Nakajo, T. (2004. 6) Flow transformation and depositional organization of debris flow-hyperconcentrated flow-streamflow spectrum in volcanic fan-delta setting: The Pleistocene Lower and Middle Formations, Yachiho Group, central Japan. *Jour. Sediment. Soc. Japan*, (59): 17-26.

中条武司 (2004. 7) 地層が語る自然史 大阪の自然年代記. 大阪人, 58 (8): 17-19.

中条武司 (2004. 7) 貝のふしぎ その2. 穴に塩を入れたら出てくる貝がいる. 大阪市立自然史博物館 (編) 第33回特別展「貝-その魅力とふしぎ-」特別展解説書: 10.

Nakajo, T. (2004. 8) Wave-influenced tidal flat sedimentation in the microtidal setting, estuary of the Kushida River, central Japan. Abstract, 6th International Conference on Tidal Sedimentology, Copenhagen, Denmark: 137-138.

中条武司 (2004. 9) 洪水時における砂質潮汐地での急速な泥の堆積: 伊勢湾南西部櫛田川河口干潟の例. 日本地質学会第111年学術大会 (千葉) 講演要旨: 85.

中条武司 (2004. 11) 空から見た干潟. ns. 50 (11):141-142.

中条武司 (2005. 3) シンポジウム「日本の川の自然と大和川」開催にあたって. 自然史研究, 3 (4): 48.  
〔平成13年度分追加〕

中条武司・和田 岳・松本吏樹郎 (2002. 3) ジュニア自然史クラブの活動. 「学校」・「地域」と自然史博物館: 7-9.

#### IV. 文部省科学研究費補助金を受けて行った研究

(奨励研究, 基盤研究, 海外研究など)

1. 当館学芸員が研究代表者となったもの  
当年度は該当者なし

2. 当館学芸員が研究分担者となったもの

##### ■基盤研究 (B)

研究課題	研究代表者	当館分担者
------	-------	-------

旧石器の層位攪乱をもたらす最終氷期の乾裂・凍結割れ目の形成機構に関する比較研究 (3年間継続の2年目) (課題番号15300298)	趙 哲済	那須孝悌
--------------------------------------------------------------------------	------	------

○研究代表者ととも到大韓民国(京畿道漣川群全谷里旧石器遺跡)の調査をおこなった。

##### ■基盤研究 (B)

研究課題	研究代表者	当館分担者
------	-------	-------

環境変動下における果実の結実フェノロジーと種子散布者の動態に関する広域研究 (4年間継続の2年目) (課題番号15310162)	上田恵介	和田 岳
------------------------------------------------------------------------	------	------

○近畿地方の調査研究を分担した。

#### V. 他機関からの研究助成を受けて行った研究

##### ■大阪市立大学・都市問題研究

研究課題	研究代表者	当館分担者
------	-------	-------

市民と共に探る大阪のセミの謎	沼田英治 (大阪市立大学)	初宿成彦
----------------	------------------	------

○大阪城公園でのマーキング調査などを行った。

#### VI. 財団等の助成を受けて行った研究

1. 当館学芸員が研究代表者となったもの

##### ■厚岸湖・別寒辺牛湿原学術研究奨励補助制度

研究課題	研究代表者
------	-------

ヤガタフクログモをめぐるヒメバチ2種の季節消長と寄生習性に関する研究	松本吏樹郎
------------------------------------	-------

○北海道厚岸町, 別寒辺牛湿原においてクモに寄生するヒメバチの調査を行った。

##### ■ニッセイ環境問題研究助成

研究課題	研究代表者
------	-------

里山の生息地構造はどのように形成されたか? 里山環境の民俗学的・考古学的・生態学的理解を目指して」(継続)	佐久間大輔
-------------------------------------------------------	-------

○京阪奈丘陵を中心とする地域の里山の, 歴史・民俗・生態学調査を行った。

2. 当館学芸員が研究分担者となったもの

##### ■三菱財団自然科学研究助成

研究課題	研究代表者	当館分担者
------	-------	-------

世界自然遺産候補地, ボルネオ島マラー山系に残る原生林の植物多様性の分類学的解析 (1年間)	岡田 博	内貴章世
---------------------------------------------------	------	------

○2004年12月6日から2005年1月5日の31日間, インド

**調査研究事業**

- ネシア共和国に出張した。
- ボルネオ島において、熱帯雨林の植物多様性調査を行った。
- アカネ科植物の分類学的再検討のための資料収集を行った。
- ボゴール植物園標本館において標本調査を行った。

**VII. 海外出張・派遣**

■平成16年度大阪市学芸員海外研修

氏名：波戸岡清峰  
 出張先：アメリカ合衆国  
 日程：平成17年1月29日～2月19日（22日間）  
 経費：平成16年度学芸員海外研修  
 目的：ウナギ目魚類の標本（特に種の基準となる模式標本）の調査、および150年以上の歴史を持ち、かつ先進的な標本活用で実績もある米国の博物館の標本管理システムの取得

■文部科学省の補助金等による出張

氏名：那須孝悌  
 出張先：大韓民国（京畿道漣川群全谷里旧石器遺跡）  
 日程：平成16年5月26日～平成16年5月31日（6日間）  
 目的：「旧石器の層位攪乱をもたらす最終氷期の乾裂・凍結割れ目の形成機構に関する比較研究」  
 研究代表者：趙 哲済（大阪市文化財協会）

■財団等の補助金による出張

氏名：塚腰 実  
 出張先：ポーランド、ロシア、スウェーデン、フランス、チェコ、ドイツ、オーストリア  
 日程：平成16年10月1日～11月21日（52日間）  
 経費：財団法人カメイ社会教育振興財団平成16年度学芸員等の博物館職員の内出張研修に対する助成  
 目的：「新たに発見された日本産ヒシ科新属化石とヨーロッパ産ヒシ科化石の比較研究—新属化石をもとに明らかにするヒシ科の進化」の研究

氏名：那須孝悌  
 出張先：大韓民国京畿道抱川郡蘇屹邑  
 経費：平成16年度藤原ナチュラルヒストリー振興財団第12回学術研究助成

目的：「過去100万年間における日本列島の森林帯の分化時期に関する古花粉学的研究」  
 研究代表者：本郷美佐緒（新潟大学）

氏名：内貴章世  
 出張先：インドネシア共和国  
 日程：平成16年12月6日～平成17年1月5日（31日間）  
 経費：平成16年度三菱財団自然科学研究助成  
 目的：「世界自然遺産候補地、ボルネオ島マラー山系に残る原生林の植物多様性の分類学的解析」  
 研究代表者：岡田 博（大阪市立大学大学院理学研究科教授）

■私費による学会出席

氏名：中条武司  
 出張先：デンマーク王国  
 日程：平成16年7月31日～8月12日  
 目的：コペンハーゲン大学で行われた第6回国際潮汐堆積学会議（6th International Conference on Tidal Sedimentology）での講演およびその見学旅行への参加。

**VIII. 外部研究者の受け入れ**

外部研究者の受け入れに関する要綱（p.57）に基づき、平成16年度は、次表のとおり外来研究員・研究生を受け入れた。

表1.平成16年度に受け入れた外部研究者

氏名	種別	依頼元	担当学芸員
橘 麻紀乃	外来研究員	本人	樽野 博幸
松江実千代	外来研究員	本人	那須 孝悌
西城 洋	外来研究員	本人	初宿 成彦
木村 全邦	外来研究員	本人	佐久間大輔
花崎 勝司	外来研究員	本人	波戸岡清峰
小郷 一三	外来研究員	本人	山西 良平
本郷美紗緒	外来研究員	本人	那須 孝悌
松村 勲	外来研究員	本人	山西 良平
道盛 正樹	外来研究員	本人	佐久間大輔
上中 央子	研究生	京都造形美術大学 岡田文男教授	那須 孝悌
小倉 徹也	研究生	大阪市文化財協会 西口一男事務局長	川端 清司



期間中に外部研究者が公表した業績は次の通り。

本郷美佐緒（2004）大阪堆積盆の更新統におけるハリゲヤキ属（ニレ科）花粉化石の層序分布。2004年日本第四紀学会大会（山形大学）【2004年日本第四紀学会講演要旨集，71-72，（2004）】。

西城洋・初宿成彦（2004. 11）。コセスジゲンゴロウを約60年ぶりに再発見。ねじればね（111）：7-8。日本甲虫学会。

木村全邦・日出幸啓子（2005）近畿地方におけるジムカデゴケの分布。大阪市立自然史博物館研究報告（59）：51-54。

# 資料収集保管事業

## I. 主な購入標本

該当なし

## II. 寄贈および交換標本

### ■動物研究室

天王寺動物園のオランウータン	1点	高見 一利氏	奈良県田原本町産トカゲ	1点	今西 塩一氏
神戸市産アカネズミ	3点	松浦 宜弘氏	桜井市産ヌマガエル	1点	今西 塩一氏
箕面市産シカ・ヒミズ	2点	澤田 義弘氏	能勢町産ヤマアカガエル	1点	浦野 信孝氏
三重県大台町産ヒミズ	1点	岡本 雄大氏	広島県竹原市産ヌマガエル	1点	藤本龍之介氏
川西市産シカ他	2点	浦野 信孝氏	岐阜県産マムシ	1点	前畑 慎吾氏
川上村産シカ	1点	西澤真樹子氏	生駒市産カエル類	6点	
大台ヶ原産シカ	1点	宮武 頼夫氏			米澤里美・西澤真樹子氏
淡路島産シカ	4点	米澤 里美氏	堺市鉢ヶ峯産カエル類	2点	
堺市産タヌキ他	2点	佃 十純氏			仁木梅子・河野芳美氏
福井県産ハクビシン	1点	三原 学氏	御坊市産クサガメ	1点	米澤 里美氏
京都市産ハツカネズミ	2点	米澤 里美氏	古座町産シュレーゲルアオガエル	1点	宮本久美子氏
京都府産シカ他	4点	米澤 里美氏	京都市左京区産ニホンヒキガエル	1点	藤本龍之介氏
河合町産ウサギ	1点	丸井 英幹氏	貝塚市産ナメクジ他	2点	西澤真樹子氏
箕面市産テン	1点	西岡 稔氏	阪南市産アライグマ	1点	西澤真樹子氏
天王寺動物園のホッキョクグマ	1点	高見 一利氏	奈良県大宇陀町産アカネズミ他	13点	伊藤ふくお氏
能勢町産シカ	1点	浦野 信孝氏	豊岡市産イノシシ	2点	岩崎 夏雄氏
大阪湾産マイルカ	1点	大阪市港湾局	五條市産フクロウ	1点	丸山健一郎氏
和歌山市産エゾムシクイ	1点	神里三恵子氏	天王寺区産カワセミ・イタチ	2点	藤本龍之介氏
九州各地産ベントス	75点	渡部 哲也氏	城東区産アオサギ	1点	長谷 豊英氏
高石市産カワラヒワ	1点	松下 宏幸氏	和歌山県産トビ	1点	小山 栄氏
豊中市産コゲラ・スズメ	2点	丸橋 寿夫氏	尼崎市産アブラコウモリ	1点	大宮 文彦氏
千葉県産キョン他	5点	米澤 里美氏	四條畷市産カエル類	1点	米澤 里美氏
堺市産タヌキ	6点	浦野 信孝氏	奈良県産両生類	45点	今西 塩一氏
沖縄県産シュリケマイマイ他	4点	西澤真樹子氏	三重県産タカチホヘビ	1点	戎谷 秀雄氏
貝塚市産カワニナ	3点	西澤真樹子氏	能勢町産ヒバカリ	1点	小山 栄氏
滋賀県産クロツグミ	1点	粉川 文平氏	阿倍野区長池産ウシガエル	1点	辻井 悠希氏
富田林市産キビタキ	1点	川崎 稔子氏	交野市産ヒバカリ	1点	西畑 敬一氏
泉大津市産ハヤブサ	1点	佐藤 信弘氏	茨木市産カエル類	5点	野口 健氏
平野区産イタチ	1点	吉井 陽子氏	大阪府・京都府産両生類	6点	林 美正氏
熊本県産ウグイス他	2点	渡部 哲也氏	京都市鞍馬産ヒキガエル	1点	藤本龍之介氏
高槻市産スズメ	2点	瀧端真理子氏	岐阜県産アマガエル	1点	前畑 慎吾氏
神戸市産ホオジロ	1点	山本 順一氏	奈良県五條市産ウシガエル	1点	丸山健一郎氏
岐阜県産オオコノハズク他	3点	前畑 慎吾氏	大阪府・京都府産タゴガエル	3点	
住之江区産クロベンケイガニ	2点	西尾フミ子氏			林 美正・渡辺 隆夫氏
奈良市産シロマダラ	1点	井上美恵子氏	箕面市産ジムグリ	1点	浦野 信孝氏
			奈良市産マムシ	1点	稲本 雄大氏
			泉南市産ツチガエル	1点	浦野 信孝氏
			西表島産ズグロミゾゴイ・ヤマシギ	1点	小菅 桂子氏
			大淀町産テン	1点	橋田 俊彦氏
			和泉市産アライグマ	1点	白木江都子氏
			茨城県産ヒヨドリ	1点	底 宏美氏
			熊本県産ウグイス	1点	渡部 哲也氏

倉本満両生類コレクション	514点	倉本 満氏	滋賀県産鰓脚類	4点	Mark J. Grygier氏
朽木村産シカ	2点		奈良県産ハシブトガラス	1点	宮本久美子氏
		村井 貴志・中村 浩氏	貝塚市産アカネズミ	1点	西澤真樹子氏
滋賀県水口町産ダルマガエル	1点	西澤真樹子氏	豊岡市産イノシシ	6点	岩崎 夏雄氏
福井県三方町産シマヘビ	1点	西澤真樹子氏	岡山県産サワガニ他	13点	西澤真樹子氏
貝類コレクション	285点	梅谷 朝子氏	新潟県産トガリネズミ	1点	富永 修氏
クジャクとセンザンコウ	2点	坂 憲武氏	生野区産ヒヨドリ	1点	河合 真弓氏
ニホンザル	1点	浦野 信孝氏	京都府八幡市産ハタネズミ	4点	楠本 華織氏
堺市産鳥類	11点	浦野 信孝氏	兵庫県城崎郡産ユビナガコウモリ他	2点	片岡 宣彦氏
茨木市産ジョウビタキ	1点	西川 喜朗氏	熊本県産イタチ	1点	渡部 哲也氏
奈良県産カエル類	11点	今西 塩一氏	宮崎県産ジョウビタキ	1点	菱田 泰宏氏
白浜町産ヒバカリ	1点	小山 栄氏	石垣島産オオヒキガエル	1点	中井穂瑞嶺氏
石垣島産オオヒキガエル	1点	中井穂瑞嶺氏	河内長野市産ヤマカガシ	1点	西尾フミ子氏
河内長野市産テン	1点	浦野 信孝氏	河内長野市産ヘビ類・カエル類	2点	田中久美子氏
等脚類副模式標本	6点	布村 昇氏	茨城県筑波産カエル類	2点	藤本龍之介氏
堺市産ヒナコウモリ	2点	米道 綱夫氏	和歌山県日高町産マムシ	1点	
能勢町産キクガシラコウモリ他	5点	浦野 信孝氏			中井圭二・中井登志代氏
奥尻島産オジロワシ	1点	北川十寸子氏	奈良県弥山産タゴガエル	1点	宮本久美子氏
能勢町産マメシジミ他	18点		河南町産シマヘビ	1点	柴田光慈郎氏
		西澤真樹子・宮本久美子・	平野区産シジュウカラ	1点	高木理恵子氏
		中井穂瑞嶺・盛口 満・盛口佳子氏	枚方市産シロハラ	1点	山本 仁絵氏
大東市産ヤモリ	1点	西澤真樹子氏	徳島県産バン他	2点	谷岡 仁氏
堺市産ジネズミ	1点	福田 穰嗣氏	六甲山産ノゴマ	1点	小菅 康孝氏
カワウソ	1点	松村 直近氏	門真市産カワラヒワ	1点	野島 和子氏
カワウソ	1点	川手 実氏	大阪市中央区産シロハラ	1点	柳澤 香里氏
石垣島産リュウキュウコノハズク	1点	中井穂瑞嶺氏	あやめ池遊園のイボイノシシ他	2点	河合 正人氏
河内長野市産オオシロハラミズナギドリ	1点	浦野 信孝氏	奈良県産タヌキ	1点	
		西澤真樹子・宮本久美子・米澤里美・杉本雅志氏			
天王寺区産エゾムシクイ	1点	石田 幸子氏	泉佐野市のタヌキ他	2点	上久保文貴・西澤真樹子氏
奄美大島産ジャワマングース	1点	川島 友和氏	枚方市産タヌキ	1点	手島 伸治氏
鶴見区産モズ	1点	原田 義則氏	堺市産マムシ・メジロ	2点	仁木 梅子氏
大阪府産コウモリ類他	6点	浦野 信孝・松岡 聡氏	桜井市産シロハラ	1点	飯塚 謙三氏
滋賀県木之本町産サル	1点	森本 委利氏	西区産シロハラ	1点	矢野 弘美氏
串本町産ヒミズ	1点	仁木 梅子氏	熊本市産シロハラ	1点	渡部 哲也氏
八尾市産アブラコウモリ	1点	土井 妙子氏	東住吉区産スズメ	1点	六車 恭子氏
大東市産ヒミズ他	2点	西畑 敬一氏	西宮市産コサギ	1点	三宅 隆三氏
箕面市産ヒミズ	1点	佐藤 青矢氏	福井県産キツネ・タヌキ	2点	三原 学氏
大台ヶ原産ヒミズ	1点	木村 全邦・瀬戸 剛氏	海遊館のカマイルカ他	10点	海遊館
池田市産ネズミ類	1点	今城香代子氏	大阪市住吉区産オオタカ	1点	長居小学校
猪名川町産ヒミズ	1点	飯島 昌氏	大津川産ユリカモメ	1点	浦野 信孝氏
大阪市東成区産ドブネズミ	1点	奥田 悠太氏	岸和田市産ノウサギ	1点	白木 茂氏
和歌山県岩出町産コウベモグラ	1点	宮本久美子氏	高槻市産ドバト	1点	瀧端真理子氏

資料収集保管事業

大阪市東住吉区産ツグミ	1点	西澤真樹子氏	ヌカキビの虫こぶ	3点	天野 史郎氏
浪速区産キジバト	1点	中村 恵昭氏	春日山産昆虫	6点	宮武 頼夫氏
八尾市産ハシブトガラス	1点	土井 妙子氏	日本産ハチ類	13点	桂 孝次郎氏
栃木県産リス	1点	西澤真樹子氏	北ベトナム産マダラガ	4点	大和田 守氏
滋賀県今津町産ジネズミ	1点	下村 直巳氏	ロシア沿海州産昆虫	781点	富永 修氏
滋賀県守山市産アブラコウモリ	1点	乾 公正氏	関西地方産昆虫	1122点	大宮 文彦氏
熊本県産ゴイサギ	1点	渡部 哲也氏	日本産および海外産昆虫	197点	市川 顕彦氏
奈良市産ノスリ	1点	山川 眞義氏	大和川産甲虫類	138点	
奄美大島産マングース	2点	小倉 剛氏			吉田 俊明, 由美, 優紀, 誠俊氏
芦屋市産メジロ	1点	清水 裕行氏	キタウロコアリ完・副模式標本	3点	吉村 正志氏
生駒市産タシギ	1点	琢磨千恵子氏	長野県美ヶ原産蛾類	5点	永瀬 幸一氏
枚方市産キツネ	1点		京都府産コアシナガバチ	1点	柴田 保彦氏
	中津	弘・琢磨千恵子氏	日本産ゴミムシダマシ化甲虫	311点	塚本 瑠一氏
熊本県産タヌキ	1点	三宅 隆三氏	滋賀県甲賀町産ノシメトンボ異常型	1点	井上 清氏
交野市産アカネズミ	1点	岡田 崇彰氏	四国産蝶・蛾	11点	海地 節雄氏
富田林市産タヌキ	1点	松下 宏幸氏	由良川産コカゲロウ幼虫液浸標本	10000点	藤谷 俊仁氏
津市産ハクセキレイ	1点	執行 一正氏	マラウイ産ミイロオビゲンセイ	3点	渡辺 弘之氏
河内長野市産ノスリ	1点	清水 俊雄氏	オオアカフナガタハナノミ	2点	堀 繁久氏
茨城県産ジネズミ他	3点	島軒めぐみ氏	魚沼層産昆虫化石	662点	林 成多氏
鳥取県産アマダコ	1点	近藤 和寛氏	ロシア産甲虫類	8点	Dr German Lafer
岐阜県産イタチ	1点	斉藤 英嗣氏	(ロシア科学アカデミー極東支部生物学土壌学研究所)		
奈良県産タヌキ	1点		日本産シテムシ10頭と交換.		
	前田	路・前田 一郎氏	静岡県産直翅目模式標本	8点	石川 均氏
住之江区産ツグミ	1点	西尾フミ子氏	硫黄島産直翅目標本	5点	寺山 守氏
和泉市産タヌキ	1点	白木 茂氏	八丈島産ゴキブリ・バッタ類	12点	川畑 喜照氏
栃木県産ツグミ	1点	和知 令子氏	■植物研究室		
河内長野市産テン	1点	千葉 圭介氏	寄贈および交換(*)標本.		
箕面市産ニホンヒキガエル	1点	中井穂瑞嶺氏	約1600点もの寄贈や交換があったことは、2001年度より利用可能となった新収蔵庫の効果であろう。市民の期待に応えることの重要性をうかがうことができる。		
滋賀県八日市市産ヒミズ他	2点	中嶋 絹江氏	近畿地方産植物	500点	梅原 徹・丸井 英幹氏
山梨県産ヒミズ	2点	戸倉 明子氏	三重県産植物	150点	田中 光彦氏
滋賀県産カモシカ	1点	阿部 勇治氏	日本産植物	150点	首都大学東京 牧野標本館*
藤原広蔵鳥類コレクション	8点	炭田 仙二氏	日本産植物	200点	藤井 伸二氏
羽曳野市産コミミズク	1点	福田 裕氏	日本産植物	350点	京都大学総合博物館*
西宮市産スズガモ	1点	三宅 隆三氏	オーストラリア産植物	258点	
長野県産イノシシ	1点	佐々木國勝氏	アデレード生物多様性センター植物標本館*		
■昆虫研究室			日本産菌類標本	100点	関西菌類談話会
アメリカ産ジュウシチネンゼミ	30点	木村 貴志氏	■地史研究室		
関西地方産昆虫ほか	3542点	梅谷 繁雄氏	和歌山県印南町産岩石	1点	斎藤 侑三氏
大阪府産トウキョウヒメハンミョウ	2点	山本 捺由氏	糸魚川市姫川フックサイト含有炭酸塩岩		竹之内 耕氏
アメリカ産ジュウシチネンゼミ	20点	末吉 昌宏氏	淡路島の和泉層群産サンゴ化石		山際 延夫氏
対馬産キジラミ	53点	林 正美氏			
日本産キジラミ副模式標本	4点	井上 広光氏			

泉南地域岩石プレパレート他	岩下 充子氏	5月4日	泉佐野市滝ノ池	ハチ類 (M)
ブラジル産魚化石	2点 森 勲氏	5月7日	京都市西京区西山・行事下見	甲虫類 (S)
■第四紀研究室		5月8・9日	宮崎県小林市	照葉樹林の昆虫 (M)
大阪市内ボーリング試料	45件	5月11～18日	ロシア沿海州	甲虫類 (S)
	大阪市住宅局・建設局	5月13日	熊取町	ハチ類 (M)
		5月14日	奈良県天理市福住	桜井市初瀬・行事下見

### Ⅲ. 館員による資料収集

#### ■動物研究室

担当学芸員は山西…Y, 波戸岡…Hと略記する。

大阪湾各地で海岸動物を採集	(3-6月, 計6回, Y)	5月17～19日	北海道厚岸町	湿原の昆虫 (M)
和歌川河口(和歌山市)で干潟動物を採集	(5月, Y)	5月23日	京都市西京区西山・行事	甲虫類 (S)
和歌山県日置川町で海岸動物を採集	(8月, Y)	5月23日	兵庫県波賀町	昆虫一般 (M)
兵庫県新舞子で干潟動物を採集	(9月, Y)	5月26日	奈良県桜井市初瀬	川西町・行事下見
奈良県及び大阪府の大和川水系河川で魚類を採集	(4月～8月, 10月, 11月, H)	5月27日	滋賀県安曇川など	甲虫類 (S)
		5月27日	兵庫県三田市有馬富士	昆虫一般 (M)
		5月29日	滋賀県大津市堅田・行事	水生昆虫類 (S)
兵庫県新舞子干潟で魚類を採集	(9月, H)	5月30日	奈良県天理市福住	桜井市初瀬・行事
				昆虫一般 (M)

#### ■昆虫研究室

4月5日	奈良県大和郡山市	ハチ類 (M)	5月31日	河内長野市三国山	昆虫一般 (M)
4月6日	滋賀県近江八幡市	甲虫類 (S)	6月1日	貝塚市馬場	ハチ類 (M)
4月9日	貝塚市馬場	ハチ類 (M)	6月4～6日	長崎県対馬	昆虫一般 (M)
4月10日	滋賀県安曇川町	甲虫類 (S)	6月5日	滋賀県安曇川・野洲川など	甲虫類 (S)
4月11日	和歌山県橋本市・紀見峠		6月6日	大阪市住之江区	兵隊虫 (S)
	昆虫合宿下見 (S, M)		6月7～14日	和歌山県高野山・岐阜県乗鞍・山梨県富士山麓	甲虫類 (S)
4月14・15日	愛媛県久万町	ハチ類 (M)	6月8日	和歌山県高野山	昆虫一般 (M)
4月15日	滋賀県守山市・琵琶湖大橋		6月9日	藤井寺市道明寺・行事下見	昆虫一般 (M)
	水生昆虫類 (S)		6月10日	兵庫県波賀町	昆虫一般 (M)
4月16日	高槻市中畑	テントウムシ (S)	6月11～14日	兵庫県香住町・浜坂町・鳥取県岩美町などの海岸	スナビキソウ (K)
4月17日	貝塚市和泉葛城山	ブナ林の昆虫 (M)	6月13日	奈良県桜井市初瀬	川西町・行事
4月18日	千早赤阪村・行事	昆虫全般 (M)			昆虫一般 (M)
4月19日	京都府舞鶴市	昆虫全般 (M)	6月18日	京都市下鴨神社	甲虫類 (S)
4月20日	貝塚市馬場	ハチ類 (M)	6月19～21日	北海道厚岸町	湿原の昆虫 (M)
4月21日	滋賀県栗東市	甲虫類 (S)	6月20日	奈良県桜井市初瀬	友の会行事
4月20～26日	台湾陽明山公園大屯山, 二子山, 烏来	マダラチョウ類 (K)			ホタル (S)
4月22日	貝塚市馬場	ハチ類 (M)	6月23・24日	奈良県王寺町など	甲虫類 (S)
4月24日	貝塚市馬場	ハチ類 (M)	6月25日	山梨県富士山麓	アブラムシ (S)
4月25日	滋賀県今津町饗場野	甲虫類 (S)	6月25日	京都府網野町	海浜昆虫 (M)
4月25日	高槻市三島江・行事	レンゲ畑の昆虫 (M)	6月25～27日	東大阪市枚岡公園	蝶・蛾 (K)
4月26日	愛媛県久万町	ハチ類 (M)	6月27日	和歌山県橋本市・紀見峠	昆虫合宿下見
4月28日	東生駒市傍示・行事下見	昆虫一般 (M)			甲虫類 (S, M)
4月28日	貝塚市和泉葛城山	ブナ林の昆虫 (M)	6月28日	京都府宇治市	ハチ類 (M)

資料収集保管事業

7月3日(午前)長居公園	セミの幼虫 (S)	9月5日	西区鞆公園
7月3日(午後)奈良市奈良公園・行事下見			セミのぬけがら：友の会調査会 (S, M)
	ヒメハルゼミ (S)	9月7・8日	仙台市
7月5日 貝塚市馬場	ハチ類 (M)	9月8日	箕面市箕面
7月9日 千葉県茂原市	セミ (S)	9月9日	大阪城公園ほか
7月9・10日 北海道厚岸町	湿原の昆虫 (M)	9月9日	愛媛県面河村石鎚山
7月11日 奈良市春日山・行事		9月10日	和歌山市
	ヒメハルゼミ (S, M)	9月12日	奈良県御所市・大和葛城山・行事
7月13日 泉佐野市犬鳴山	ヒメハルゼミ (S)		セミのぬけがら (S)
7月17日 貝塚市馬場	ハチ類 (M)	9月13日	愛媛県三崎町
7月18・19日 和歌山県橋本市・紀見峠・昆虫合宿		9月15~17日	滋賀県永源寺町ほか
	昆虫類 (S, M)	9月18日	枚方市磯島 渚
7月21日 長居公園	セミの幼虫探索 (S, M)	9月19日	茨木市泉原・友の会行事
7月22日 京都市花脊峠	昆虫一般 (M)	9月20日	愛媛県久万町
7月24日 中央区大阪城公園・行事	クマゼミ (S)	9月21日	滋賀県能登川町
7月24日 兵庫県宝塚市武庫川河原		9月27日	札幌市円山
	ミズヒマワリ (K)	9月30日	滋賀県能登川町
7月28日 京都市観月橋 行事	昆虫一般 (M)	9月30日	長野県飯田市
7月28・29日 新潟県妙高高原・長野県美ヶ原		10月1日	長野県飯島町
	甲虫類 (S)	10月2日	兵庫県宝塚市武庫川河原
8月3・4日 長野県美ヶ原・しらびそ峠	甲虫類 (S)		アサギマダラとミズヒマワリ (K)
8月3~7日 北海道厚岸町	湿原の昆虫 (M)	10月3日	東生駒市傍示・行事
8月5~9日 韓国全羅北道茂朱徳裕山		10月8~10日	鹿児島県霧島町
	アサギマダラ (K)	10月11日	枚方市磯島
8月8日 長居公園	ハチ類 (M)		行事バッタのオリンピック (K, M)
8月14日 長野県松本市など	甲虫類 (S)	10月13・14日	神戸市北区
8月14日 滋賀県大津市びわ湖バレイ		10月17日	滋賀県今津町饗場野
	アサギマダラ (K)	10月17日	高槻市摂津峡
8月15日 貝塚市馬場	ハチ類 (M)	10月24・25日	宮崎県小林市
8月16日 石川県加賀市 ニイニイゼミぬけがら (S)		10月25日	奈良県三郷町 八尾市
8月16日 藤井寺道明寺石川 大和川		10月28日	滋賀県高島町
	蝶類と食草 (K)	10月29日	滋賀県高島町松の木内湖
8月18日 茨城県つくば市筑波山	昆虫一般 (M)	10月31日	奈良県桜井市三輪山山麓
8月20日 名古屋市	セミのぬけがら (S)	11月7日	奈良県三郷町 八尾市・行事
8月22日 長居公園		11月8日	奈良市奈良公園・行事下見
	セミの幼虫探索：室内実習 (S)	11月14日	奈良市奈良公園・行事
8月23~25日 北海道厚岸町	湿原の昆虫 (M)	11月15日	滋賀県西浅井町大浦
8月24日 宮崎市・鹿児島市	セミのぬけがら (S)	11月17日	泉佐野市滝ノ池
8月25~27日 福岡市	セミのぬけがら (S)	11月20日	奈良県大和郡山市
8月26日 茨木市泉原	昆虫一般 (M)	11月21日	奈良市柳生・行事
9月4日 島本町水無瀬・行事	昆虫一般 (M)	12月28日	福岡県福津市津屋崎
9月4日 長居公園	昆虫一般 (K)	2月6日	東大阪市枚岡公園・行事

3月2日 豊能町妙見口 ツガの甲虫類 (S)  
 3月8日・17日・30日 高槻市中畑 ツガの甲虫類 (S)  
 3月19日 泉佐野市犬鳴山 ガ類 (M)  
 3月24日 滋賀県野洲市・野洲川 河川の甲虫類 (S)  
 3月25日 和歌山市友が島・行事 昆虫一般 (M)  
 3月29日 神戸市森林植物園 ツガの甲虫類 (S)

## ■植物研究室

調査研究の他、野外観察会の機会等を利用した資料収集のうち、主なものを以下に記す。担当学芸員は、佐久間…S、内貴…Nと略記する。

4月22日, 8月2日 京都府木津町 (S)  
 5月7日, 6月22日 京都市西山 (S)  
 6月13~15日 沖縄県八重山郡竹富町(西表島), および石垣市(石垣島) 植物一般 (N)  
 6月24日 堺市信太山 (S)  
 7月5日, 9月11日, 9月15日, 11月14日 奈良市春日山 (S)  
 8月13日 敦賀市 (S)  
 8月27日 北海道釧路市 (S)  
 8月30日 京都市華頂山 (S)  
 9月11日 長崎県上県郡上県町 植物一般 (N)  
 9月12日 神奈川県足柄下郡湯河原町, 真鶴町 植物一般 (N)  
 10月10~11日 三重県尾鷲市, 熊野市 植物一般 (N)  
 10月12日 交野市傍示 (S)  
 10月24日 能勢町初谷 (S)  
 11月15日 大阪市大和川 (S)  
 12月6日~1月5日 インドネシア共和国中央カリマンタン州 植物一般 (N)  
 12月19日 大阪市大阪城公園 (S)  
 3月17日 河内長野市天見 (S)  
 3月27日 東京都八丈島八丈町 植物一般 (N)

## ■地史研究室

担当者名 樽野…T, 川端…K, 塚腰…Gと略記する。

4月1・2日 アルゼンチン 岩石・植物 (G)  
 5月7日 大阪南港 マイルカ (T)  
 5月19~21日 鳥取県三朝町 三朝層群植物化石 (G)  
 6月23~26日 岐阜県郡上市 阿多岐層植物化石 (G)

7月1~2日 和歌山県御坊市沖 現生放散虫標本 (K)  
 9月21~23日 東京都五日市町・埼玉県岡神村・群馬県神流町ほか 中生代放散虫化石分析用試料 岩石 (K)  
 10月6日 ポーランド 植物 (G)  
 11月20日 泉佐野市 和泉層群産化石 (K)  
 12月26日 岬町みさき公園 アジアゾウ (T)  
 3月17~19日 熊本県八代市 中生代放散虫化石分析用試料 (K)

## ■第四紀研究室

担当学芸員名は石井久夫…IH, 石井陽子…IY, 中条武司…Nと略記する。

4月18~24日 沖縄県西表島 現生貝類 (IH)  
 5月6日 三重県松阪市 現生貝類 (IH)  
 5月12日 滋賀県大津市堅田 現生貝類 (IH)  
 5月14日 兵庫県武庫川溪谷 岩石 (IH)  
 5月22日 和歌山市和歌川河口 現生貝類 (IH)  
 5月24日 御所市葛城川ほか 水質資料 (IH)  
 5月27日 奈良県広陵町ほか 水質資料 (IH)  
 5月29日 滋賀県大津市堅田 現生貝類 (IH)  
 5月29日 和泉市 大阪層群火山灰試料 (IY)  
 6月4・6日 岸和田市 大阪層群火山灰試料 (IY)  
 6月5・6日 岬町長崎海岸 現生貝類 (IH)  
 8月4日 デンマーク 白亜紀/第三紀境界部チョーク (N) 海浜砂 (N)  
 8月7~10日 デンマーク 水質資料 (IH)  
 8月25日 御所市葛城川ほか 現生貝類 (IH)  
 9月11・12日 兵庫県御津町 現生貝類 (IH)  
 9月23日 兵庫県御津町 現生貝類 (IH)  
 9月25日 山口市樺野川河口 現生貝類 (IH)  
 10月12日 奈良県御所市 現生貝類 (IH)  
 10月16日, 17日, 24日 和泉市 大阪層群分析用試料 (IY)  
 10月29日 奈良県天理市 現生貝類 (IH)  
 11月6日 岸和田市 大阪層群火山灰試料 (IY)  
 1月31日 奈良県大和郡山市 現生貝類 (IH)  
 3月28~31日 フィリッピン国マニラ市 現生貝殻標本 (IH)

#### IV. 業務委託による収集

##### 【業務委託による収集】

業務名：大和川水系プランクトン採集・検定業務

採集地域：大和川水系10地点

採集方法：植物プランクトンは表層からバケツを用いて採取する。採水量は5Lとする。動物プランクトンは、ポンプ採水及びネット法によって採集する。採水量は400Lとし、ポンプ採水の場合には、採水後、プランクトンネットで濾過し、試料とする。採集した植物プランクトンおよび動物プランクトン試料は、ホルマリン溶液で固定した後に研究室に持ち帰り、濃縮して沈殿量を測定する。その後、顕微鏡で検鏡し、同定及び細胞数・個体数の係数を行う。

採集時期：平成16年11月11日、29日および平成17年1月13日、14日

#### V. 現有資料数

##### ■動物研究室（平成16年度末）

海綿動物	122点
刺胞動物・有櫛動物	673点
扁形・紐形動物	299点
触手動物	135点
環形動物	5,301点
甲殻類	11,603点
軟体動物	27,538点
棘皮動物	2,200点
原索動物	443点
その他無脊椎動物	809点
魚類	25,342点
両生類	21,273点
爬虫類	4,550点
鳥類	6,027点
哺乳類	1,099点
(計)	107,414点

##### ■昆虫研究室

標本総数 715,116点（平成16年度末時点）

〔※ 698,179点(平成15年度末時点)+日本産追加15,613

点+外国産追加1,324点〕

（日本産 523,464点、外国産 191,652点）

##### 日本産

カワゲラ目	441
カゲロウ目	10,149
トンボ目	17,716
カマキリ目	380
直翅目	11,119
ナナフシ目	452
ハサミムシ目	496
ガロアムシ目	75
ゴキブリ目	470
シロアリ目	86
シロアリモドキ目	25
チャテテムシ目	335
アザミウマ目	24
同翅類（セミなど）	13,583
異翅類（カメムシなど）	27,829
脈翅目	1,455
シリアゲムシ目	1,651
トビケラ目	2,158
蛾（ガ）	31,071
蝶（チョウ）	56,450
甲虫目	250,716
ハエ目	23,499
ハチ目	39,932
その他の昆虫（各目）	16,961
クモなど	16,393
(計)	523,464

##### 外国産

蝶（チョウ）	77,774
蛾（ガ）	7610
ハチ目	4,895
ハエ目	862
甲虫	58,540
脈翅目	51
異翅類（カメムシなど）	2,033
同翅類（セミなど）	5,851
直翅型昆虫	3,192



トンボ目	1,298
カワゲラ目	66
その他(各目)	3,116
南太平洋学術調査コレクション	4,700
田中竜三氏コレクション	12,439
韓国産昆虫コレクション	1,506
アフガニスタンの昆虫	6,143
クモなど	1,576
計	191,652

## ■植物研究室(平成16年度末、未登録標本を含む)

種子・シダ植物サク葉標本	245,183
蘚類標本	34,730
苔類標本	23,000
地衣類標本	353
海藻標本	12,708
菌類標本	4,909
木材標本	1,772
木材プレパラート	1,283
果実標本	6,071
(計)	330,009

## ■地史研究室

古生代植物化石	185点
中生代植物化石	367点
第三紀植物化石	3,741点
岩石	1,275点
鉱物	2,513点
脊椎動物化石	1,515点
古生代無脊椎動物化石	1,370点
中生代無脊椎動物化石	3,090点
有孔虫等微化石プレパラート	17,841点
放散虫化石	135点
第四紀植物化石	17,939点
(計)	49,971点

■第四紀研究室(登録済標本数)	平成16年度末
人類遺物	29点
植物化石	17,939点
現生花粉プレパラート	2,114点
現生花粉	941(種)
現生シダ植物胞子	362(種)
無脊椎動物化石	3,564点
大阪市内ボーリング資料	1,408(件)
(計)	26,357点(件・種)

## VI. 収蔵資料目録の発行

## ■大阪市立自然史博物館収蔵資料目録第37集

和田 岳編

「川村多実二鳥類コレクションー旧宝塚昆虫館所蔵鳥類  
仮剥製標本目録ー」

B 5 判65 p. 2005年(平成17年) 3月31日発行。

## VII. 自然史図書の収集と活用

当館の資料収集活動の一環として、自然史科学に関係した図書資料の収集を行っている。その大部分は当館発行物との交換で収集しているものであるが、個人、出版社、団体、自治体、政府機関等からの単行本、各種報告書等の寄贈や、当館予算による購入によるものもある。

普及書的な図書や図鑑類はこれまで主として本館の普及センターに配置していたが、一部をのぞいて大半を「花と緑と自然の情報センター」内の自然の情報センターへ移し、入館者の閲覧と、市民からの各種の相談や質問への対応に使用されている。

専門図書は主として各研究室に、調査報告書・逐次刊行物は書庫に配置されている。また各種地図の収集も行っている。これら専門図書の閲覧や利用の希望が近年増加してきているが、司書が配置されていないため、市民が直接利用できる体制はとれていない。そのような条件の中でも、コピーサービスについては、学芸員が文化庁の著作権実務講習を受けることによって、法的には実施可能な体制を整え、自然の情報センターにおいて市民の要望に応じている。

平成9年度に開始した交換・寄贈による逐次刊行物と寄贈・購入書籍のコンピュータへのデータ入力、平成16年

度(2004年度)も、新しく受け入れたものについて引き続きおこない、国内の刊行物については過去に遡及して入力を行っている。

平成16年度中に交換・寄贈によって受け入れた逐次刊行物と調査報告書は平成16年度に3,192冊、平成16年度末現在の累計143,466冊である。

### 1. 個人・機関からの受贈(交換分は除く、敬称略、個人含む、順不同)

- 個人：上田俊穂，佐川克弘氏，松浦正郎，浜田伸一，須田孫七，浅野博利，松葉千年，藤里美枝(やまぐちけい)，中山圭子，磯田辰也，辰巳和子，牛島清春，牛島富子，井上 清，木庭 宏，藤井浩樹，宮武頼夫，および館員(波戸岡清峰，樽野博幸，金沢 至，初宿成彦，佐久間大輔，川端清司，松本吏樹郎)
- 民間団体，出版社，企業など：(財)埼玉県生態系保護協会，シップ・アンド・オーシャン財団海洋政策研究所，フィールドの達人刊行会，科学教育兵庫サークル，第一学習社，光村図書出版，啓林館，東中国クマ集会，沖縄生物教育研究会，大阪文化都市研究会，神奈川県昆虫談話会，
- 大学，研究所など：京都大学総合博物館，龍谷大学，Laboratory of Entomology, Institute of Biology and Soil Science, Russian Academy of Science, Far Eastern Branch,
- 政府機関及び自治体及び関連団体など：(財)科学技術広報財団，岩手県湯田町歴史民族資料館，デジタルアーカイブ推進協議会，福井県福祉環境部自然保護課，芸術拠点形成時業大阪市実行委員会，科学技術庁，東京都新宿区教育委員会，香川県環境森林部，芸北町教育委員会，上野市，嬉野町史編纂室，(独)緑資源機構近畿北陸整備局，

### 2. 購入等によるもの

- 図書購入費による購入

平成16年度に登録した購入図書 183冊

- 消耗品費による購入

国内雑誌 科学など 9誌

外国雑誌 Copeiaなど 8誌

[平成16年度購入雑誌]

国内：科学，遺伝，生物科学，海洋と生物，月刊地球，別冊地球，月刊海洋，別冊海洋，岩鉞。

外国：Copeia, Curator, Taxon, Evolution, Pacific Science, Systematic Biology, Geological Magazine, Journal of Paleontology

### ●学会への加入による収集

16学会へ団体会員として加入し、会誌を収集した。学会名は以下の通りである。この他にも、多く収集すべき学会が国内外に多数あるが、予算の状況から入会できていないのが現状である。

日本応用動物昆虫学会(日本応用動物昆虫学会誌, Applied Entomology and Zoology)

日本動物学会(動物学雑誌)

日本生態学会(日本生態学会誌)

日本生物地理学会(日本生物地理学会会報)

日本衛生動物学会(衛生動物)

日本魚類学会(魚類学雑誌)

日本植物学会(Journal of Plant Research)

日本遺伝学会(遺伝学雑誌)

日本藻類学会(藻類)

日本陸水学会(陸水学雑誌)

日本地質学会(地質学雑誌)

日本第四紀学会(第四紀研究)

日本古生物学会(Paleontological Research)

日本地学研究会(地学研究)

日本博物館協会(博物館研究)

全国科学博物館協議会(全科協ニュース)

国際トンボ学会(ODONATOLOGICA)

この他、交換により、会誌を受領している学会も多い。

### 3. 文献交換状況

当館発行の研究報告・自然史研究・収蔵資料目録・展示解説・館報および大阪市立自然史博物館友の会発行(当館編集)Nature Study と交換に、国内国外の研究・教育機関と文献交換を行っており、各種自治体・団体・個人から調査報告書等の寄贈を受けた。平成16年度に交換・寄贈により入手した逐次刊行物・調査報告書等は、3,192冊である。

### ■研究報告など出版物の配布

2004年4月～2005年3月の期間の配布内容は以下の通り

	国内	国外
研究報告58号	487ヶ所 500冊	447ヶ所 450冊
自然史研究3巻3号	367ヶ所 379冊	191ヶ所 194冊
収蔵資料目録第34集	249ヶ所 261冊	56ヶ所 57冊

いずれも第1回配布のみ。

# 普及教育事業

## I. 各種普及教育活動

多様な博物館利用者とその要望に応えるため、以下のような各種普及行事を行っている。今年度より、特別展に付随して、ワークショップを開始した。展示を有効に活用し、今まで普及の対象から外れていた低年齢の来館者とその保護者に博物館および博物館行事への関心を持ってもらうことができた。「裏庭ビオトープの日」の参加者を、一般からも募集し登録制とし、博物館行事へのリピーター層の獲得に貢献した。また、平成18年度に開催予定の特別展「大和川の自然（仮題）」に向けて、市民に大和川水系での自然観察の面白さと意義を伝える「大和川シリーズ」を充実させた。それに伴い、要素が重複する「地域自然誌シリーズ」や「テーマ別自然観察会」の実施数が例年より少なくなっている。

観察会のテーマの多様化と参加者数の増加に伴い、館外の専門家に外部講師を依頼している（\*\*印）。また、市民の社会奉仕活動への参加意欲を満たすと共に自然史科学への関心を高めてもらい、かつきめ細かい普及教育活動を行うために、市民ボランティアによる補助スタッフ制度を設けている（\*印）。補助スタッフ制度は、下見をかねた事前研修や学習会をそれぞれの行事について行うので、補助スタッフにとっては少人数制の内容の濃い学習の場として活用されている。各種行事はこうした多数の方々の理解と協力によって支えられている。

以下に各行事の記録を、行事名、実施場所、実施日時、参加者数の順に略記する。

### ■やさしい自然観察会

これまでに自然史博物館行事に参加したことのない人を主な対象に、自然のおもしろさを野外で直接体験してもらい、自然に親しむ糸口をつかんでもらうことをねらいとした行事で、初級向けである。独自の広報用チラシを作成し、学校、各種社会教育施設、区役所、館内などで配布をし、今まで野外活動に参加したことのない新しい層の開拓に務めた。

「レンゲ畑のいきもの」 高槻市三島江

4月25日 申込385名（当選187名）参加138名

「干潟の自然」\* 和歌山市和歌川河口

5月22日 申込352名（当選124名）参加87名

「海への自然」\*、\*\* 岬町長崎海岸

6月6日 申込492名（当選277名）参加167名

「ツバメのねぐら」 奈良市平城宮跡

8月7日 申込243名（当選206名）参加69名

「バッタのオリンピック」\*\* 枚方市磯島～渚（淀川河川敷）

10月11日 申込238名（当選128名）参加68名

「野草と木の実であそぼう」 能勢初谷

10月24日 申込 約180名参加120名

「化石さがし」 泉佐野市

12月5日 申込425名（当選156名）参加115名

「化石さがし（予備）」 泉佐野市

2月6日 申込123名（当選123名）参加96名

7回実施 のべ参加者数860名

### ■地域自然誌シリーズ

大阪周辺の地域を歩き、その地域の自然をさまざまな分野の観点から観察し、自然の特徴とそこを利用する人との関わりについて総合的に考えることを目的とした行事。普及行事の中では、中・上級向け。

「東生駒」 生駒市高山町

5月16日 申込96名（当選52名）雨天中止

「京都西山」 京都府京都市西京区

5月23日 申込51名参加34名

「揖保川から新舞子」 兵庫県御津町

9月12日 申込37名参加27名

「奈良公園」 奈良県奈良市

11月14日 申込51名参加42名

3回実施 のべ参加者数103名

### ■大和川シリーズ

平成18年度実施予定の特別展「大和川の自然（仮題）」に向け、大和川の自然を地域別にさまざまな分野の観点から見る行事、または対象となる生き物やテーマを絞って行う行事を実施した。地域自然誌シリーズの要素をもつものと、テーマ別自然観察会の要素を持つものを行った。今年度は大和川の本流を主な対象地域として行った。

「繁殖する鳥」 堺市金岡町

4月11日 申込22名参加16名

「大和川を歩く1. 福住～初瀬」\* 奈良県天理市～桜井市

5月30日 申込82名参加39名

「大和川を歩く2. 初瀬～川西」\* 奈良県桜井市～川西町

6月13日 申込45名参加24名

「スッポン・ナマズ・モクズガニ」 大和川・石川合流

6月27日 申込93名（当選76名）参加47名

普及教育事業

「大和川を歩く3. 川西～王寺」 奈良県川西町～三郷町 9月26日 申込54名参加40名	「クマゼミ幼虫の体重測定2」* 8月22日 申込65名参加32名
「アカトンボ調べ」 奈良県桜井市 10月31日 申込60名参加43名	「キノコ」 10月31日 申込40名（当選30名）参加22名
「大和川を歩く4. 王寺～八尾」 奈良県三郷町～八尾市 11月7日 申込39名参加30名	「ハチのお家をのぞいてみようー竹筒トラップを使ったハチの観察2ー」 1月16日 申込27名参加24名
「冬の河川の水鳥調査」 鴨川 11月27日 申込13名参加13名	「植物の維管束」* 1月23日 申込19名参加17名
「大和川を歩く5. 八尾～住之江・河口」 八尾市～大阪市住之江区 11月28日 申込52名参加38名	「砂浜のメイオフアウナの観察」 2月6日 申込18名参加17名
「川の地形と街並み：旧大和川に沿って」 柏原市～八尾市 3月26日 申込53名参加34名	「魚のからだ」 2月20日 申込11名参加10名
10回実施 のべ参加者数324名	8回実施 のべ参加者188名

■テーマ別自然観察会

自然のさまざまな現象から、テーマと対象を絞って観察することで、自然に対する理解をより深めようとする行事。学芸員の専門分野を基礎にしたテーマが多く、より深く掘り下げて学習する機会を提供する。

「大和川河口の魚」 大阪市住吉区～住之江区 4月18日 申込20名参加18名
「貝集め」 滋賀県大津市堅田漁港 5月29日 申込101名参加72名
「ヒメハルゼミ」* 奈良公園 7月11日 申込67名参加49名
「初夏のキノコ」 箕面市 7月17日 申込92名（当選61名）参加48名
「キノコ」 交野市河内森～傍石 10月17日 申込75名（当選60名）参加45名
5回実施 のべ参加者232名

■室内実習

生物・化石などを材料に、博物館備え付けの研究機器を活用しながら、野外では行えない分析的な観察・実習を体験することにより、自然に対する理解を深める行事。普及行事の中では上級向け。

「ハチのお家をのぞいてみようー竹筒トラップを使ったハチの観察1ー」 4月4日 申込19名参加14名
「クマゼミ幼虫の体重測定1」* 7月10日 申込93名（当選59名）参加52名

■野外実習

野外において自然観察や調査を行ってデータを得、そのデータの持つ意味を分析的に考える実習。自然に対する理解を深めることができる。普及行事の中では上級向け。

「クマゼミはどこまで飛ぶのか？」* **（大阪市大と共催） 大阪市大阪城公園 7月24日 事前申込なし 参加134名
「クマゼミはどこまで飛ぶのか？（その2）」** （大阪市大と共催） 大阪市大阪城公園 8月13日 申込28名参加26名
「セミのぬけがらから環境をしらべよう」* 奈良県御所市～大和葛城山 9月12日 申込33名参加18名
「森を測る」 東大阪市枚岡 2月27日 申込25名参加23名
4回実施 のべ参加者数175名

■長居植物園案内

季節の植物の観察を、携帯型実体顕微鏡による観察も取り入れて行っている。参加者が多いため、このような観察の手引きには、補助スタッフの存在が不可欠である。また、補助スタッフにより、自主的に行事での学芸員の解説の記録が発行され、参加者の学習効果を高めることができた。

4月17日（土）*	71名
5月15日（土）*	67名
6月19日（土）*	57名
7月17日（土）*	56名

8月14日(土)*	41名
9月18日(土)*	57名
10月16日(土)*	69名
11月20日(土)*	70名
12月18日(土)*	68名
1月15日(土)*	37名
2月19日(土)*	45名
3月19日(土)*	68名

12回実施 延べ参加者数706名

■動物・昆虫編

長居公園の自然により親しんでもらうための行事。季節毎に変化する長居公園の自然を、動物・昆虫を通じて、知ってもらいたいがある。

「春の鳥たち」*	4月3日(土)	52名
「春の渡り鳥」*	5月1日(土)	55名
「初夏の虫たち」	6月5日(土)	71名
「初秋の虫たち」	9月4日(土)	66名
「秋の渡り鳥」*	10月16日(土)	40名
「ダンゴムシ・ワラジムシ」	11月6日(土)	20名
「冬鳥の観察」*	12月4日(土)	39名
「冬鳥の食べ物」*	1月8日(土)	51名
「冬越しする虫」	2月5日(土)	39名
「冬鳥の食べ物2」*	3月5日(土)	39名

10回実施(7・8月は室内実習として実施)  
のべ参加者数472名

■科学映画会

毎土曜(午後2時)、毎日曜・祝日(午前11時と午後2時)に実施している。7・8月の夜間開館延長時には、午後4時半からの上映も加えた。入館者サービスの一環として、当館講堂で上映を行った。上映時には、学芸員による簡単な説明を行った。近年、自然を扱ったオーソドックスな作品の制作が減少傾向にあり、この行事の継続が困難になりつつある。

4月	ビデオ科学館 ミツバチ	12回	478名
5月	ビデオ水族館 カニ	20回	1418名
6月	森林の成り立ちと営み	12回	653名
7月	琵琶湖のいきもの	18回	713名
8月	干潟の生きものたち	23回	835名
9月	こん虫たちのすみかとからし	14回	864名
10月	雑木林一人と自然の共生	14回	455名

11月	つぶのようすーたいせき岩と火成岩	16回	462名
12月	川の流れて河原のようす	14回	347名
1月	地震と災害	12回	416名
2月	森林から見た日本の気候	14回	445名
3月	昆虫の化石ーネクイハムシの化石は語る	14回	465名計183回上映
			のべ参加者数 7551名

■自然史講座

当館学芸員が自らの調査・研究をもとに自然史科学に関する話題を市民に普及する講演会。毎月第1土曜日の午後3時から午後4時半に、定期的に開催した。通常30名から50名、多いときで60名を超え、会場の集会室の定員近くになることがあった。

4月3日	日本のゾウ化石と中国のゾウ化石2	樽野 博幸	22名
5月1日	牧野四子吉と魚類画	波戸岡清峰	48名
6月5日	植物と動物の関わりと進化	岡本 素治	45名
7月3日	生きている放散虫(3)		
	沖繩と紀伊水道の放散虫	川端清司	27名
8月7日	貝の歴史は6億年	石井久夫	31名
9月4日	貝のさまざま	山西良平	40名
10月2日	丘陵の大阪層群	石井陽子	38名
11月6日	世界一セミのやかましい街=大阪?		
		初宿成彦	27名
12月4日	里山のクヌギー台場クヌギから割り木山まで		
		佐久間大輔	48名
1月8日	日華区系の植物		
	ー中国雲南省・四川省の植物を中心として		
		内貴章世	66名
2月5日	デンマーク干潟紀行	中条武司	37名
3月5日	ヒシの果実	塚腰 実	29名

12回実施 のべ参加者数 458名

■貝のスケッチ教室

講師 山下裕子 氏

特別展「貝のふしぎ」関連行事。この行事参加者の作品と一般公募作品を、自然史アート展「貝の絵」として、特別展開催期間中に本館特別展示室で展示した。

4月11日(日)実施 参加者数 21名

■夏休み自由研究相談会

夏休みの自由研究について、テーマ設定や調べ方について、学芸員が相談にのる行事。夏休みの終わりに実施される標本同定会などの行事への参加の促進や、博物館利用の今後の継続的な利用につなげるのがねらいの行事である。対応する学芸員の準備のため、事前申込みとしたが、当日参加も可能とした。この行事でも、補助スタッフを募集し、相談者と学芸員の橋渡しの役目を担ってもらった。

7月24日(土)実施 相談件数27件 うち事前申込み6件

■標本同定会

子どもたちが夏休みに採集して作成した標本について、その種類や名前を調べて教える行事。生き物や岩石・化石の名前を知ることにより、自然をより身近なものとしてとらえ、探求心を育てることをねらいとしている。館外の多数の専門家の協力を得て、毎年8月下旬におこなっている。

8月29日(日)実施

同定件数 113件 参加者 180名

植物34件、昆虫36件、貝・他の動物17件、化石9件、  
岩石・鉱物 17件

■各種講演会

今年度は、館主催の普及講演会、シンポジウムの他にも、他団体と共催で地球科学講演会など多彩な講演会を実施した。多数の市民に聴講していただき、好評を博した。

1. 普及講演会「モクズガニの一生」

講師 小林哲氏(日本ベントス学会会員、農学博士)  
(大和川水系調査グループ、大阪湾海岸生物研究会  
とともに主催)

5月9日開催 58名

2. プロ・ナトゥーラ・ファンド 第1回テーマシンポジウム

「ひとと野生生物との関係を考える」～いきものと共存できる社会を目指して～

基調講演

「野生生物保全の問題を解決する仕組みづくり」

羽山伸一氏(日本獣医畜産大学助教授)

事例報告

「世界遺産春日山原生林と天然記念物ニホンジカの保全生態学的研究」

前迫ゆり氏(関西自然保護機構)

「西中国山地での堅果類の豊凶測定によるツキノワグ

マ出没予報システムの構築の研究」

米田一彦氏

(NPO法人日本ツキノワグマ研究所理事)

「タンポポ調査から見えてきたこと」

木村 進氏((社)大阪自然環境保全協会)

パネルディスカッション

「いきものと共存できる社会の実現のために」

コーディネーター 菅沼孝之氏

(関西自然保護機構副会長)

主催:(財)日本自然保護協会・(財)自然保護助成基金

共催:関西自然保護機構・(社)大阪自然環境保全協会・

大阪市立自然史博物館

6月13日開催 88名

3. 特別展普及講演会「貝、その魅力と不思議」

講師:奥谷喬司氏(日本貝類学会会長)

8月8日開催 76名

4. 大和川付替え300周年記念シンポジウム

「日本の川の自然と大和川」

(大阪市建設局とともに主催)

10月10日開催 113名

5. IODPキャンペーン「ちきゅうってなに? 地球を調べよう」

講演「地球ってなに?」

講師 巽 好幸氏(海洋研究開発機構)

主催:独立行政法人海洋研究開発機構(JAMSTEC)・日本地球掘削科学コンソーシアム(J-DESC)

後援:文部科学省

協賛:大阪市立自然史博物館

10月31日開催 60名

6. 長居植物園・自然史博物館オープン30周年記念講演会

「長居周辺の自然と風景 今・昔」

講師 宮武頼夫(自然史博物館元館長)、岡本素治

11月21日開催 60名

7. 地球科学講演会「大阪はどれくらい揺れる!?—地震活動予測・活断層調査—」

「南海地震と西南日本の地震活動期」

橋本 学氏

(京都大学防災研究所地震予知研究センター教授)

「上町断層はいつ活動したのか」

杉山雄一氏

(産業技術総合研究所活断層研究センター長)

(地学団体研究会大阪支部とともに主催)

2月20日開催 550名

## 8. トークショー「土壌動物の世界」

講演「ミミズ 嫌われものの、はたらきもの」

渡辺弘之（日本土壌動物学会会長）

トークショー「土壌動物の世界」(スライド)

皆越ようせい（写真家）

（日本土壌動物学会とともに主催）

3月27日開催 91名

## ■ドキドキ子ども自然史ウォッチング

社会教育施設の無料開放により、博物館の利用機会を増した小中学生を対象に、1995年より実施している。展示だけではなく、普段見る機会のない研究施設・収蔵施設などを含めた館内見学や実習により、博物館と自然史科学に親しむきっかけを作ることを目的としている。夏の中学生向け「学芸員体験コース」、冬の「博物館たんけんコース」とともに大阪市内の小中学校全生徒に配布される広報誌「タッチ」に掲載され、幅広い応募がある。収蔵施設の見学時の安全確保、実習の進行については、補助スタッフの協力に負うところが大きい。2003年度より、春に高校生向けの「調査研究コース」を実施している。

## 1. 「学芸員体験コース」(中学生向け)

3日間連続の実習。学芸員が予め用意した課題に基づき、学芸員・補助スタッフの指導のもと、野外調査や分析・同定作業を行い、その結果をまとめて展示として作成した。

2004年度は、長居植物園と自然史博物館実習室において「花のしくみと花粉の観察」「長居公園のカタツムリ」の2テーマについて実施した。

自分の力で自然を調査し、展示を作成、発表することで、より自然に親しむとともに、探求心や観察力を育てることを目標としている。また、学芸員の仕事と博物館の役割を体験的に理解してもらうプログラムとして位置づけている。1998年より、この方式にて実施している。

8月18日(水)～20日(金)実施

12名申込み 12名当選 10名参加

## 2. 「博物館たんけんコース」(小学生向け)

実験室や収蔵庫などの裏方を中心とする館内見学と、すくらっちカードによる展示見学。普段見ることのできない博物館の施設を、学芸員の具体的な仕事内容とともに紹介する。博物館を身近で親しみやすいものとして感じ、自然史についての興味関心を育てることをねらいと

している。また、保護者向けガイダンスを行い、家族でのより楽しい博物館利用のアドバイスを行っている。

総申込者数 140名 全員当選 のべ参加者数 93名

1月9日(日) 午前 32名参加

午後 33名参加

1月10日(月・祝) 28名参加

## 3. 調査研究コース(高校生向け)は2005年4月に実施

## ■ジュニア自然史クラブ

普及行事参加者の傾向を見ると、親子連れの小学生の参加は多いが、中学生以上は少ない。高校教員との懇談(1999年2月20日)によると、高校生は小学生連れの家族や年配者との行動を好まない傾向があるという。これらをふまえ、2000年より中学生・高校生を対象とした「ジュニア自然史クラブ」を開始した。クラブ組織とすることで、学校外の友人と出会う場になることと、継続的な参加のきっかけになると考えた。

## ●部員募集

博物館行事案内の中で、ジュニア自然史クラブの行事を広報し、部員を募集した。前年度の部員にも引き続き案内を送付した。

## ●ジュニア自然史クラブの参加者

一度申し込んだ中高生を部員とし、その後も行事案内を直接送ることとした。

2005年3月31日現在の部員数 103名

## ●活動内容

4月のミーティングにおいて部員の意見により2ヶ月に1度のペースでの行事を企画した。その他にも、部員からの希望に応じて、随時行事を追加した。その結果、2002年度は年間13回の行事を企画し、11回を実施した。「裏方見学&標本実習」\*

4月6日 自然史博物館 22名

「金剛山」\*

4月18日 千早赤阪村・御所市金剛山 15名

「友が島」 5月4日 和歌山市友が島 雨天中止

「磯観察」 6月20日 岬町豊国崎

台風接近のため中止

「ウシガエル釣り」とツバメのねぐら」\*

7月28日 巨椋干拓地・宇治川 9名

「ミーティングと標本実習」\*

8月13日 自然史博物館 19名

## 普及教育事業

「水無瀬溪谷探険」*	9月4日	島本町水無瀬溪谷	5名
「東生駒でウシガエルリベンジ」*	10月3日	生駒市高山	6名
「柳生で水晶探し」*	11月21日	奈良市柳生周辺	13名
「化石と地層」*	12月12日	神戸市須磨区白川	24名
「河原で自然観察」*	1月6日	高槻市鶴殿	11名
「枚岡公園」*	2月6日	東大阪市枚岡公園	9名
「友が島」	3月25日	和歌山市友が島	14名

### ■教員向け「総合的な学習」支援プログラム

2002年度からの学校完全週5日制移行に加え、新しい指導要領で「総合的な学習の時間」への取り組みが始まり、学校関係者による博物館などの社会教育施設の利用が高まると考えられる。このため、各校園において「総合的な学習の時間」に応用できるテーマで、教員を対象としたプログラムを実施した。今後、指導要領の見直しがなされることが予想されるが、理科や生活科での身近な自然調べで有効活用できる内容となっている。

「カニ釣り」	5月1日	大阪市淀川区	申込15名	参加12名
「火山灰 野外編1」	5月29日	和泉市	申込6名	参加4名
「火山灰 野外編2」	6月6日	岸和田市	申込6名	参加5名
「簡単な実験で花色の謎にせまる」	6月12日	自然史博物館	申込14名	参加12名
「蝶・蛾の幼虫の見分け方」	6月27日	東大阪市枚岡公園	申込23名	参加20名
「火山灰 室内編1」	7月4日	自然史博物館	申込11名	参加6名
「キノコ」*	7月31日	自然史博物館	申込19名	参加17名
「火山灰 室内編2」	8月8日	自然史博物館	申込13名	参加10名
「河原の石ころ」	9月25日	藤井寺市	申込11名	参加11名
「樹脂包埋標本の作製」	10月24日	自然史博物館	申込13名	参加10名

「火山灰 野外編3」	11月6日	岸和田市	申込7名	参加2名
「火山灰 室内編3」	11月14日	自然史博物館	申込8名	参加6名
「ダンゴムシ・ワラジムシの観察実習」	11月21日	自然史博物館	申込9名	参加7名
「博物館のホームページで自然を調べる」	3月9日	自然史博物館	申込6名	参加4名

### ■補助スタッフによるボランティア募集

大阪市立自然史博物館では、1995年度から、ボランティア事業として、友の会会員による補助スタッフ制度導入した。本事業の運営は特定非営利活動法人大阪自然史センターに委託し、その事業組織である大阪市立自然史博物館友の会会員に対して募集を行っている。補助スタッフの採用に当たっては、行事实施に必要な知識・技術会得のために、行事のテーマと内容に応じた事前研修、打ち合わせなどを当館学芸員が実施している。補助スタッフは、こうした研修を通して自身の学習に積極的に取り組むとともに、その成果を社会に還元することを通じて、当館の普及事業の一翼を支えている。2004年度は、延べ45回(日)の行事機会に、延べ172人・日の補助スタッフが参加した。また、これらのための研修を延べ23回(日)開催し、これらを受講した人たちは延べ104人・日に達する。このことから事前学習は当博物館の普及教育プログラムとして重要な位置を占めていることが分かる。



## 平成16年度補助スタッフによるボランティア事業一覧

補助スタッフがサポートした行事				行事に対応する研修、下見、打合せ		
行事名	場所	月日	人数	場所	月日	人数
千瀉の自然	和歌山市	5月22日	16	和歌山市	5月8日	7
海辺の自然	岬町	6月6日	17	岬町	6月5日	15
大和川を歩く1. 福住～初瀬	天理市～桜井市	5月30日	1			
大和川を歩く2. 初瀬～川西	桜井市～川西町	6月13日	1			
ヒメハルゼミ	奈良市	7月11日	4			
クマゼミ幼虫の体重測定1	当館	7月3日	6			
クマゼミ幼虫の体重測定2	当館	8月22日	3			
植物の維管束	当館、長居植物園	1月23日	3	当館、長居植物園	1月22日	2
クマゼミはどこまで飛ぶのか?	大阪市中央区	7月24日	6			
セミのぬけがらから環境をしらべよう	御所市～大和葛城山	9月12日	1			
夏休み自由研究相談会	当館	7月24日	2			
ドキドキ子ども自然史ウォッチング 「学芸員体験コース」	当館、長居植物園	8月18日	2	当館	8月15日	2
		8月19日	2			
		8月20日	2			
ドキドキ子ども自然史ウォッチング 「博物館たんけんコース」	当館	1月9日	5	当館	12月26日	4
		1月10日	5			
教員向け「キノコ」	当館	7月31日	2			
植物園案内	長居植物園	4月17日	3	長居植物園	4月17日	3
		5月15日	6		5月15日	6
		6月20日	3		6月20日	3
		7月17日	2		7月17日	2
		8月14日	3		8月14日	3
		9月18日	3		9月18日	3
		10月16日	5		10月16日	5
		11月20日	4		11月20日	4
		12月18日	5		12月18日	5
		1月20日	4		1月20日	4
		2月19日	3		2月19日	3
		3月19日	5		3月19日	5
	植物園案内動物編	長居植物園	4月3日	5	長居植物園	3月27日
		5月1日	4		4月24日	5
		10月16日	4		10月9日	3
		12月4日	4		11月23日	5
		1月8日	4		12月26日	6
		3月5日	5		2月27日	4
ジュニア自然史クラブ	当館	4月6日	5			
	千早赤阪村・御所市金剛山	4月18日	1			
	巨椋干拓地・宇治川	7月28日	2			
	当館	8月13日	3			
	島本町水無瀬溪谷	9月4日	1			
	生駒市高山	10月3日	1			
	奈良市柳生	11月21日	3			
	神戸市須磨区白川	12月12日	2			
	高槻市鶴殿	1月6日	2			
東大阪市枚岡公園	2月6日	2				

## II. 大阪市立自然史博物館友の会

自然史博物館友の会は、博物館を積極的に利用して、自然に親しみ、学習しようとする人たちの会である。友の会の会計年度は1～12月で、博物館とは独立した組織として運営されている。2001年からは特定非営利活動法人大阪自然史センターの一事業として運営されており、その活動の輪を大きく広げている。

友の会では、博物館主催行事とは別に、計31回の友の会主催行事を企画し、雨天のため2回の行事を中止し、29回の行事を行い、延べ1236名の会員とその家族が参加した。友の会行事では、自然観察と同時に会員相互の交流・会員と評議員や学芸員との交流が行われている。「セミのぬけがらしらべ」では、都市公園におけるセミの発生について継続データの収集を行っている。プロジェクトYでは、大和川にすむ生き物や環境について調べている。子どもから年配の方まで100名以上が参加し、昆虫、魚、鳥、貝、水質などを調べている。この成果は大和川の特別展（2006年度の予定）などで公表予定である。裏庭ビオトープの日には、友の会会員も参加して、ビオトープの生き物の調査やビオトープ作りを行っている。会員の多様なニーズに応えていくためにも、今後行事などをますます充実させていく必要があると考えている。

### ■庶務

1. 2004年度の会員数は1838名（1年会員1717名、半年会員89名、賛助会員32名）。2003年度は1877名（1年会員1711名、半年会員140名、賛助会員26名）だったので、全体として前年より39名減少した。

2004年度賛助会員：浅井 彪、浅葉 清、永徳 定、大宮文彦、小郷一三、陰山崇子、小山 栄、小山 良、倉本 宣、島川育子、志村研太郎、高橋明子、高橋弘志、瀧川久子、田村美美子、寺島久雄、西川喜朗、西田良司、野村典子、長谷美代子、樋渡諒児、丸山精一、宮武頼夫、本村明彦、山下良寛、山本 章、浦野動物病院、大阪市立環境学習センター、(株)新興出版社啓林館、(株)乃村工藝社、匿名2名（敬称略）

2. 5回の定例評議員会を開き、友の会の事業・庶務等について審議した。

3. Nature Studyのネイチャーサロンの編集会議を26回開催し、Nature Studyに毎号、ネイチャーサロンを掲載した。

4. 3月20日（土・祝）・21日（日）NPO法人大阪自然史センターと大阪市立自然史博物館が主催した「大阪自然史フェスティバル2004」に出展した。

### ■役員

会 長：西川喜朗  
副 会 長：谷田一三、那須孝悌（2004年11月25日逝去）  
評 議 員：梅原 徹、浦野信孝、桂 孝次郎、加藤琢巳、白木江都子、杉浦真治、田代 貢、寺島久雄（2004年11月24日逝去）、鍋島靖信、花岡皆子、春沢圭太郎、堀田 満、道盛正樹、六車恭子、村井貴史、山下裕子  
会計監査：左木山祝一、加納康嗣

### ■事業報告

1. 刊行・製作：Nature Study誌50巻1号（通巻596号）～12号（通巻607号）を発行した。
2. 行事：31回の行事を企画し、29回実施した（中止2回）。延べ 1236名の会員とその家族が参加した。
 

(1) 友の会総会2004 1月25日（日）	192名
(2) 昆虫採集入門講座「紀見峠」 7月18日（日）・19日（月・祝）	30名
(3) 特別展内見会「いきもの図鑑 牧野四子吉の世界」 4月10日（土）	11名
(4) 特別展「貝—その魅力とふしぎ」プレスプレビュー見学会 7月16日（土）	11名
(5) 友の会の夕べ「貝—その魅力とふしぎ」 7月5日（土）	37名
(6) 友の会合宿「朽木村」滋賀県朽木村 7月30日（金）～8月1日（日）	52名
(7) 「鞆公園セミのぬけがらしらべ」大阪市西区 9月5日（日）	102名
(8) 第3回スケッチ合宿（申込みが少なく、日帰りで実施）高台寺山 11月6日（土）	9名
(9) プロジェクトY 成果発表会 2月8日（日）	72名
2004年度春～夏の成果発表会 8月22日（日）	28名
(10) 裏庭ビオトープの日 4月24日（土）、5月22日（土）、6月26日（土）雨天中止、7月24日（土）、8月28日（土）、9月25日（土）、	

10月23日(土), 11月27日(土), 12月25日(土)の8回実施のべ107名

(1) 月例ハイキング:

1月18日(日)「新旭の水鳥観察会」	20名
2月15日(日)「京都府立植物園と京都大学総合博物館」	68名
3月28日(日)「城ヶ崎海岸」	100名
4月18日(日)「保津峡から祇王寺」	59名
5月16日(日)「春の能勢」雨天中止	
6月20日(日)「大和川上流のゲンジボタル」	40名
7月18日(日)「陰花植物大観察会」 (きしわだ自然資料館と合同開催)	39名
8月23日(日)「ツバメの集団ねぐら観察会」	23名
9月19日(日)「クモ」	48名
10月17日(日)「摂津峡」	47名
11月21日(日)「生駒の山すそを歩く」	69名
12月19日(日)「町の中のコケウオッチ」	70名

### Ⅲ. 博物館実習生の受け入れ

以下の日程で博物館実習を実施し、本年度は以下の39名の学生を受け入れた。

#### 一般実習コース

夏期: 9月1日～5日

飯田 洋子・神田 知美(高知大学), 岸邊 紀幸・岡崎 沙衣子(神戸大学), 森田 愛子(九州東海大学), 池上 豊・松田 崇裕(滋賀県立大学), 田中 裕一郎(和歌山大学), 秋元 佐衣子(京都橘女子大学), 立岩 邦敏・箭木 剛之・黒田 修司(大阪府立大学), 足立 美幸・藤本 英恵・吉尾 麻里(奈良女子大学)

秋期: 11月24日～28日

石井 桃子(高知大学), 半田 千尋(信州大学), 舟川 哲(宇都宮大学), 瀬川 智臣・田中 謙一(大阪教育大学), 福本 純子・原 和義(大阪府立大学), 大森 愛子・日下 鈴花(大阪女子大学)

原田 智子・山本 江利子(大阪女子大学), 野坂 洋行・谷口 綾・本田 隆行・大野 百合子・幡谷 真緒(神戸大学), 坂口 和歌子・高橋 秀規・大林 そのみ・谷口 永里子・三芳 倫子・畑野 寛子・木村 優岐(近畿大学)

#### 普及教育専攻コース

夏期: 8月2日・3日・20日～22日

八木 彬子(京都教育大学), 山北 由貴(近畿大学), 今井 義仁(滋賀県立大学), 岡田 将輝(北里大学), 綾部 美希(和歌山大学), 藤岡 美絵(追手門学院大学)

冬期: 12月20日・21日・10日～12日

黒田 あき(追手門学院大学), 江藤 麻央・梶原 裕子・藤田 雅代・松本 由梨(奈良教育大学)

#### 【非常勤講師受諾】

塚腰 実

大阪市立大学教務部非常勤講師

2004年10月1日～2005年3月31日 一部(昼間部)

「大阪の自然」15回のうち5回を担当。

中条武司

大阪市立大学 2004年度 地球学実験B 3回を担当。

#### ■マスコミ対応録(初宿)

7月23日(金): ABCテレビ「探偵ナイトスクープ」.  
根性だめしの虫=兵隊虫について。

7月24日(土): 朝日新聞夕刊(大阪本社). クマゼミ謎  
追い隊(マーキング行事のようす)。

8月7日(土): 読売テレビ「あさパラ」. クマゼミ以外  
のセミを韮公園や枚岡公園へ, 清水アナウンサーや子供ら  
と探しに行く。

8月13日(金): NHKテレビ「おはよう日本」. クマゼ  
ミマーキングのようす. 関西ローカル(7時40分ごろ)と  
全国(8時すぎ)の2回, 生放送。

8月21日(土): 東京新聞. クマゼミ北上中!?(大阪  
と同様, 東京でもいづれクマゼミが増えると初宿がコメン  
ト)。

2月27日: 夕刊フジ. グライアスオオツノハナムグリの  
生きたまの輸入に関してコメントと写真提供。

平成16年度(2004年度)普及行事, 特別展, 友の会行事一覽表

行事月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
やさしい自然 かかんさつ会	25.レンガ畑	22.千瀬のしぜ ん	6.海辺のしぜ ん		7.ツバメのね ぐら		11.バツダのオ リンピック 29.野草と木の 実遊び		5.化石さがし		6.化石さがし 予備	
地域自然誌 シリ	16.裏生駒(中 止) 京都西山					12.掛原川から 新舞子		14.奈良公園				
大シ	11.繁殖する鳥	30.福住~初瀬	13.初瀬~川西 27.スッポン 28.スズメ・モク スガニ			26.川西~玉寺	31.アカトントンボ 調べ	7.玉寺~八尾 21.水の国 28.八尾~河口			18.発表会	26.川の地形と 街並み
テ 自然観察会	18.大和川河口 の魚	29.貝集め		11.ヒメハルゼ 17.初夏のキノ コ			17.キノコ					
室内実習	4.ハチのお家 をのぞいて みよう1			10.クマゼミ幼 虫の体重測 定1	22.クマゼミ 測定2		31.キノコ			16.ハチのお家 をのぞいて みよう2 23.植物の維管 束	6.砂浜のメイ オの観察 20.魚のからだ	
野外実習	6.裏方昆虫学 & 樹本実習 18.金剛山	4.友が鳥(中 止)	20.磯観察(中 止)	24.クマゼミは どこまで飛 ぶのか? 28.ワシガエル 釣りとツツバ メのねぐら	13.クマゼミは どこまで飛 ぶのか? 13.ミナチイ グと橋本実 習	12.セミのぬけ がらから環境 をしらべよう 4.水無瀬渓谷 探検			12.化石と地層	6.河原で自然 観察	6.校園公園	25.友が鳥
ジュニア自然史 クラブ	1.カニつり 29.火山灰野 外1	29.火山灰野 外1	6.火山灰野外2 12.簡単な実験 で花色の謎 にせまる 27.蜂・蝶の幼虫 の見分け方	4.火山灰室内 1	8.火山灰室内 2	25.河原の石こ ろ	24.樹筋包埋標 本の作製	21.初生で水晶 探し				
総教 合学研 習修				31.キノコ				14.火山灰室内 3 21.ランゴムン ワラジウムシ の観察実習				9.博物館の一 ホーラムベ ーで自然を 調べる
植物園案内(第 3土曜)	17	15	19	17	14	18	16	20	18	15	19	19
植物園案内動物 昆虫(第1土曜)	3	1	5		4	4	16	6	4	8	5	5
自然史講座(第 1土曜)	3	1	5	3	7	4	2	6	4	8	5	5
特別行事	11.目のスケッ チ教室 4/10	9.普及講演会 「モクスガニ の一生」	18.プロ・ナトウ 「ア・フ・ア」 「ひびくとどろ く」 「生体植物考 え」 「産卵をみる」	24.夏休み自 由研究相談 会	8.特別展普及講 演会「貝と不 思議」 18.20.ドキド キ中学生 29.橋本同定会		10.大和川付替 え300周年記 念シンポジウ ム 31.IODPキャン ペーン	21.長居植物 園・自然史博 物館周年記 念講演会		9.10.ドキドキ 小学生	20.地産科学講 演会	27.「トーンショウ 世界」
科学映画会	上映回数8日/ 回数12回	13日/20回	8日/12回	10日/18回	9日/28回	9日/14回	11日/17回	10日/16回	9日/14回	8日/12回	9日/14回	8日/12回
展 示	4/10	11.いきもの凶魔 →5/30	7/17~貝, その魅力とふしぎ→9/5				10/9~大和 川の歴史と 現状→10/24	10/30~IODP展 示→11/7				
友の会行事	10.特別展内覧 会		16.特別展プレ ビュー 見学会 18-19.昆虫採集 入門講座「紀 実録」/合宿 30~「杉木村」	5.友の会のタ タ「貝と不思議」 22.フロッジエ ク トY飯集 家会	5.セミの抜け 殻調査			6.第3回スケッ チ旅行「高台 寺山」		30.総会	13.プロジェクト エルの卵探 し	
月例ハイイク (第3日曜)	18.保津峡から 菰王寺	16.春の能勢 のナンシボ タル	20.大和川上流 のナンシボ タル	19.クモ	23.ツバメの集 団ねぐら観 察会	17.摂津峡	21.生駒の山す そを歩く	19.町の中のコ ケウキョッチ	16.六甲山の 断層地形	20.平城宮跡~ 水上池	13.城ヶ崎の 歴史	26
ピオトープの日	24	22	26.(雨天中止)	24	28	25	23	27	25	22	26	26

## その他の事業

### ■社会教育活性化21世紀プラン

昨年度で終了した「科学系博物館教育機能活用推進事業」の実績や資産を活用すべく、社会教育施設の新展開を模索する博物館のモデルケースとして事業委嘱を受けた。

事業の展開にあたっては、「大阪市における自然教育・環境教育に対する市民ニーズ」と自然史博物館の活動をレビューすることに基礎を置き、NPOの協同の場として、学校・地域連携のパートナーとしての大阪自然史センター、広域での連携、ノウハウの交換と活用および討論の場としての西日本自然史系博物館ネットワークの両者と連携をとって進めることとした。

具体の事業は博物館のもつ学習用資料、観察ノウハウの地域と学校への普及およびレビューとして「自然体験プログラムの交流と普及」、「学校教育支援」を掲げ、行事参加者によるレビューの実施、大阪の代表的な都市河川である大和川を題材としたプログラムの開発などを行った。事業のもう一つの柱としては「友の会の活性化」を掲げた。大阪市立自然史博物館友の会は50年に近い活動の歴史を持ち、1800世帯前後の会員を有するという点でも、また多くのアマチュアおよびプロフェッショナルを育成・輩出するなど内容面でも国内有数の団体である。特に2001年のNPO法人化など、運営面でも国内の同種団体のリーディンググループとなっている。各地の自然系博物館には活動規模には大小様々あるが個性的な市民活動があり、一方で財務・組織経営などに様々な共通の悩み・課題を有していた。社会と博物館との関わりの中で、これら「友の会」のような、意識的に博物館活動に参画をする市民層の活動の充実、社会教育施設の活性化の観点から欠かせない。特に当館のように地域・学校連携のパートナーとして大阪自然史センターと密接に連携している場合には、施設サービスの将来計画の重要部分となる。これらの意識のもと2005年3月5日から6日、淡路島に西日本を中心に13の博物館・および友の会から29名の参加者を得て、友の会プレサミットを開催した。プレサミットでは友の会運営のあり方と博物館・学芸員の関与、財政的課題、魅力ある活動、安全対策など広範なテーマについての活発な議論が行われた。このプレサミットは大阪市立自然史博物館友の会よりNature Study紙上で、そして月刊ミューゼの紙上で報告の予定である。本事業は2カ年の予定であり報告書は、来年度の事業が終了した時点で刊行の予定である。

### ■子どもの居場所事業

大阪市立自然史博物館における地域子供教室（子供の居場所）事業

平成16年度より3カ年の計画で文部科学省による「子供の居場所事業」が開始された。科学系博物館でも、国立科学博物館を事務局として全国科学系博物館等における地域子ども教室推進事業運営協議会が組織され、各地で事業展開された。自然史博物館ではユースナチュラリスト支援委員会が、自然史センター関係者を中心に組織され、事業実施した。同委員会が360万円の事業委託を受けて、1. マンスリーワークショップ、2. 探検クイズ、3. ジュニア自然史クラブ、4. 裏庭ビオトープの4事業を実施した。個別の事業内容については普及教育事業の項に記されており、また、実行委員会より報告書も出版されていることから重複を避ける。

同事業に伴って、かねてから懸案であった、低年齢の見学者により深く展示のメッセージを伝えるプログラムを試行する事ができた。

### ■デジタルミュージアム事業

雇用創生事業による大阪市デジタルミュージアム事業の最終年度として各種データの入力・コンテンツの製作に努めた。

これらの総括として、館蔵コレクションの概要を示す紹介サイト [http://www.mus-nh.city.osaka.jp/collection/kanzou\\_top.html](http://www.mus-nh.city.osaka.jp/collection/kanzou_top.html) を作成し、中でも、実物の詳細な展示公開が難しく、なおかつ市民要望の高いものとして、大阪府による有形文化財指定を受けた「木村兼葎堂」の奇石・貝類コレクションをweb上で詳細な画像とともに公開した。  
<http://www.mus-nh.city.osaka.jp/collection/kenkado/>

また、個別の標本の紹介だけでは市民の自然への理解につながりにくいことから、テーマとストーリーのあるコンテンツを整備している。今年度は当館所蔵の吉良貝類コレクションなどの貝類・陸貝などをわかりやすく市民に紹介する「貝 その魅力とふしぎ」を製作した。<http://www.mus-nh.city.osaka.jp/tokuten/2004kai/virtual/index.html> これは昨年度特別展終了後に製作した「日本鳥の巣図鑑」同様、学芸員が特別展としてストーリーをつくり作成したものをweb用に再構成したものであり、博物館活動を有効活用したものである。

デジタルミュージアム事業によるコンテンツ製作は、大阪自然史センターのクリエイターチームが担当しているが、

## その他の事業

---

同チームはワークショップや21世紀プラン事業などと連携して各種のイベント特集サイトなどの製作に努めた。博物館のコンテンツ製作の上で大きな役割を果たしつつある。

### ■西日本自然史系博物館ネットワーク

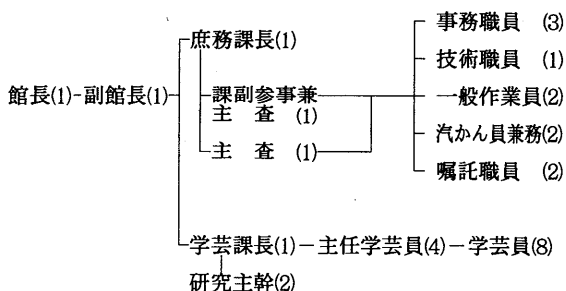
2004年5月、西日本自然史系博物館ネットワークは特定非営利活動法人として大阪府より認可を受けた。これにより、「環瀬戸内いきものマップ」などの各種事業を継続しておこなうほか、21世紀プラン事業などと連携した「友の会プレサミット」の企画、学芸員向け研修会などを開催している。さらに、昨年度（2004年2月）に橿原市昆虫館友の会他奈良県各地の自然関連グループの支援を受けて橿原文化会館で開催した西日本自然史系博物館ネットワーク設立記念シンポを受けて、各グループの活動と博物館活動を連携を図る「なら自然情報ネット」の設立と運営に協力している。今後も地域の活動と、広域の連携とを両立させるべく、活動を発展させていく同ネットワークの中核館として、当館は協力し、館単独では実現できない事業の実施に当たっていく方針である。

## I. 沿革

- 昭和24年11月8日－自然科学博物館開設準備委員会設置  
 昭和25年4月1日－自然科学博物館費予算に計上  
 昭和25年11月10日－市立美術館2階廊下において展示開設  
 昭和27年4月17日－博物館相当施設に指定  
 昭和27年6月2日－大阪市立自然科学博物館条例および規則制定  
 昭和27年7月10日－博物館法第10条により登録(第2号)  
 昭和27年10月1日－筒井嘉隆 館長に就任(39. 7. 4退任)  
 昭和32年6月7日－市立美術館より西区靱2丁目(元靱小学校校舎改造)に移転  
 昭和33年1月13日－開館  
 昭和34年 ー新館建設について本市社会教育審議会の意見具申  
 昭和39年 ー日本育英会の第一種奨学金の返還を免除される職を置く研究所に指定(文部省)  
 昭和39年8月1日－筒井嘉隆 館長に就任(非常勤嘱託-40. 7. 31退任)  
 昭和40年8月1日－千地万造 館長に就任(58. 6. 1退任)  
 昭和42年 ー大阪市総合計画局“30年後の大阪の将来計画”により長居公園内に新館敷地確定  
 昭和44年8月 ー新館建設のための基本構想審議委員会組織  
 昭和45年4月 ー自然史博物館建設委員会組織  
 昭和47年1月21日－自然史博物館建設工事着工  
 昭和48年3月31日－自然史博物館建設工事竣工  
 昭和48年4月1日－旧館閉館  
 昭和48年7月 ー新館へ移転開始並びにディスプレイ契約締結(竣工49年3月)  
 昭和49年4月1日－大阪市立自然史博物館条例公布  
 昭和49年4月26日－自然史博物館開館式挙行  
 昭和49年4月27日－開館  
 昭和51年8月19日－文部省科学研究費補助金取扱規定第2条第4号に規定する学術研究機関として指定  
 昭和58年7月1日－千地万造 館長に就任(非常勤嘱託-61. 3. 31退任)  
 昭和59年6月 ー常設展更新基本計画案策定  
 昭和60年3月 ー常設展更新計画書策定  
 昭和61年3月31日－常設展更新業務完成  
 昭和61年4月1日－新装開館  
 昭和61年4月1日－小川房人 館長に就任(兼務-2. 3. 31定年退職)  
 昭和61年4月1日－千地万造 顧問に就任(非常勤嘱託-2. 3. 31退任)  
 平成2年4月1日－小川房人 館長に就任(非常勤嘱託-3. 3. 31退任)  
 平成2年度 ー文化施設整備構想調査  
 平成3年4月1日－小川房人 顧問に就任(非常勤嘱託-5. 3. 31退任)  
 柴田保彦 館長兼学芸課長に就任(4. 3. 31定年退職)  
 平成3・4年度 ー自然史博物館整備構想調査事業 21世紀に向けての館のあり方・問題点の改善策の調査  
 平成4年4月1日－柴田保彦 館長に就任(非常勤嘱託-7. 3. 31定年退職)  
 平成7年4月1日－宮武頼夫 館長に就任(9. 3. 31定年退職)  
 平成7年度 ー自然史博物館・長居植物園付帯施設整備構想委員会設置  
 平成8年度 ー展示更新基本計画及び(仮称)花と緑と自然の情報センター設計検討  
 平成9年4月1日－宮武頼夫 館長に就任(嘱託-10. 3. 31退職)  
 平成9年度 ー展示更新実施設計及び増築にかかる基本・実施設計  
 平成10年4月1日－那須孝悌 館長に就任(13. 3. 31定年退職)  
 平成10年12月 ー花と緑と自然の情報センター建築工事着工  
 平成13年3月 ー花と緑と自然の情報センター竣工  
 平成13年4月1日－那須孝悌 館長に就任(非常勤嘱託)  
 平成13年4月27日－花と緑と自然の情報センター開館式挙行  
 花と緑と自然の情報センター開館  
 平成16年11月25日－那須孝悌 館長退職

## II. 組 織

■職員数（平成16年4月1日現在）計30名



■職員名簿（平成17年3月31日現在）

職 名	氏 名	職 種	氏 名
館 長	不 在	学芸課長	岡本 素治
副 館 長	木股 卓兒	研究主幹	樽野 博幸
庶務課長	松下 透	“	山西 良平
課副参事兼主査	畠山 賢治	主任学芸員	石井 久夫
担当係長	米野 恵子	“	金沢 至
事務職員	山田 浩美	“	川端 清司
“	森田 智之	“	波戸岡清峰
“	山岡 祐二	学芸員(地史)	塚腰 実
技術職員	高芝 義幸	学芸員(昆虫)	初宿 成彦
汽かん員兼	吉田 義昭	学芸員(動物)	和田 岳
一般作業員	泉澤 英男	学芸員(植物)	佐久間大輔
汽かん員兼	和田 知	学芸員(四紀)	石井 陽子
一般作業員	木嶋 正弘	学芸員(四紀)	中条 武司
嘱託職員	阪口 忠義	学芸員(昆虫)	松本史樹郎
“	平岡徳治郎	学芸員(植物)	内貴 章世

### ■人事異動

平成16年4月1日 松下 透 住宅局から転入  
 和田 知 中央青年センターから  
 転入  
 内貴 章世 新規採用  
 5月21日 森田 智之 平野区役所から転入  
 平成16年11月25日 那須 孝悌 退職  
 平成17年3月31日 平岡徳次郎 退職

## III. 庶務日誌

■平16年度 博物館関係者来訪

16. 6. 24 奥松島縄文村歴史資料館 職員等3名  
 NPO法人大阪自然史センターの視察
16. 12. 7 栃木県立博物館 職員2名  
 展示・施設視察及び学校との連携・体験学  
 習の実施状況について
17. 1. 12 大分県日田市立博物館 職員1名  
 博物館運営及び展示・収蔵庫等の視察
17. 1. 20 沖縄県教育庁文化施設建設室 職員3名  
 展示・施設見学及び友の会の運営等につ  
 いて
17. 2. 22 新潟県立自然科学館 展示専門員1名  
 植物化石標本・植物模型の調査
17. 3. 18 石川県ふれあい昆虫館 職員1名  
 展示手法の調査及び職員研修等につ  
 いて

■館長受嘱委員（～平成16年11月25日）

河内長野市文化財保護審議会委員（河内長野市教育委員  
 会発令）：

平成12年11月1日～平成16年10月31日

文部科学省独立行政法人評価委員会臨時委員：

平成15年3月7日～平成16年11月25日

名古屋大学博物館外部評価委員会委員

平成16年1月30日～平成16年11月25日

科学系博物館情報ネットワーク推進検討委員会委員

平成16年7月14日～平成16年11月25日

財団法人大阪科学技術センター評議員

平成16年4月1日～平成16年11月25日



## IV. 決算

■平成14年度～平成16年度（人件費を除く）

（単位：千円）

		事 項	平成14年度 決算	平成15年度 決算	平成16年度 決算
歳入	第1部	入館料ほか	17,444	18,830	16,036
		雑収(展示解説等売却代)	3,723	3,607	1,415
		国庫補助金	0	0	0
		第1部計	21,167	22,437	17,451
	第2部	府補助金	22,061	17,863	0
		第2部計	22,061	17,863	5,712
	第1部・第2部合計	43,228	40,300	23,163	
歳出	第1部	常設展覧事業	1,713	2,431	2,371
		特別展覧事業	21,309	10,531	7,405
		調査研究事業	13,357	13,785	11,931
		資料収集保管事業	4,777	4,929	4,221
		普及教育事業	2,215	2,104	2,211
		充実活性化事業	4,022	4,041	3,659
		一般維持管理費	130,836	117,213	114,590
		小計	178,229	155,034	146,388
	第2部	館藏品整備事業	11,000	0	0
		寄贈標本整理事業	3,975	5,685	3,945
		デジタルミュージアムの推進事業	31,553	22,925	21,275
		施設整備事業等	4,306	2,773	0
		収蔵庫設備整備事業			1,777
		小計	50,834	31,383	26,997
	第1部・第2部合計	229,063	186,417	173,385	

V. 入館者数（平成16年度）

区分 月	有 料				無 料							計	開館 日数
	個 人		団 体		団 体				個 人				
	大人	高・大	大人	高・大	幼・保 育園等	小学生	中学生	養護学 校・他	団 体 引率者	中学生 以 下	優待・ 招待・ その他		
(16) 4	6,598	186	455	0	504	7,335	38	218	432	7,071	6,626	29,463	26
5	8,966	279	91	39	5,010	11,332	617	440	1,040	7,925	6,311	42,050	26
6	3,753	196	174	236	451	878	457	124	136	3,295	1,372	11,072	26
7	3,790	502	0	0	436	188	150	0	71	6,021	2,321	13,479	27
8	7,226	1,372	8	290	58	0	0	0	6	14,298	3,499	26,757	26
9	3,368	171	33	114	238	559	0	93	49	4,918	1,759	11,302	26
10	3,104	94	23	449	1,394	9,156	305	267	675	3,357	1,453	20,277	27
11	2,406	162	13	209	1,413	2,475	1,027	38	321	3,946	3,440	15,450	25
12	1,039	367	4	122	125	235	309	37	38	1,598	594	4,468	23
(17) 1	2,014	235	95	0	48	320	34	11	31	2,560	842	6,190	23
2	2,267	72	0	0	321	427	316	0	93	2,359	1,195	7,050	24
3	3,509	117	954	3	1,091	333	0	37	176	4,743	1,235	12,198	27
計	48,040	3,753	1,850	1,462	11,089	33,238	3,253	1,265	3,068	62,091	30,647	199,756	306

■無料団体観覧内訳（平成16年度）

区 分	市 内		市 外		計	
	件数	人 数	件数	人 数	件数	人 数
幼稚園・保育所	106	6,340	67	4,749	173	11,089
小 学 校	126	10,825	230	22,413	356	33,238
中 学 校	39	1,720	37	1,533	76	3,253
養護学校・他	38	910	16	355	54	1,265
団 体 引 率 者		1,344		1,724		3,068
計	309	21,139	350	30,774	659	51,913

■特別展入館者数（平成10年度～平成16年度）

種別 年度	個人				団体			合計	開催期間	日数	タイトル
	大人	高・大	優待・ 他無料	中学生 以下無料	大人	高・大	中学生 以下無料				
10	8,821	2,449	4,314	12,312	48	195	6,219	34,358	8.1～10.11	61	都市の自然
11	8,236	2,305	3,995	10,733	143	292	5,108	30,812	8.7～10.11	56	海をわたった蝶と蛾
12	7,164	3,149	3,565	10,384	240	490	1,014	26,006	7.20～9.24	58	干潟の自然
13	957	45	6,808	5,996	479	0	7,468	21,753	4.7～5.27	28	50周年だよ!標本集合!!
	4,668	172	6,669	1,917	0	0	0	13,426	6.9～7.22	38	牧野富太郎と植物画展
	1,839	171	5,623	4,024	16	0	351	12,024	8.4～9.24	45	レッドデータ生物
	2,848	224	7,120	4,097	331	0	4,841	19,461	10.6～11.25	48	からだ・ふしぎ発見
	4,568	56	9,390	16,351	174	0	1,441	31,980	12.8～1.20	31	親子で遊ぶ木とのふれあいワールド
	840	23	2,406	3,013	6	0	28	6,316	3.16～3.31	14	世界の蝶と甲虫
14	2,526	98	7,113	8,271	0	0	1,867	19,875	4.31～5.12	36	世界の蝶と甲虫
	1,354	244	2,857	5,203	33	38	149	9,878	7.6～9.1	50	化石からたどる植物の進化
	6,741	792	12,531	4,694	1,337	777	301	27,173	9.14～11.4	45	目で見る「がん」展
15	4,028	228	5,995	8,252	1	30	8	18,542	7.5～8.31	50	日本鳥の巣図鑑
	4,686	37	7,776	23,784	66	0	1,902	38,251	11.29～2.1	49	親子で遊ぶ木とのふれあいワールドパート2
16	1,593	76	5,463	3,240	0	0	4,101	14,473	4.1～5.30	44	いきもの図鑑牧野四子吉の世界
	2,052	90	3,752	9,844	0	0	72	15,810	7.17～9.5	44	貝ーその魅力とふしぎ

VI. 施設の利用状況

■会議室 平成16年度 8件

年月日	団体名	人数
16. 4. 4	タンポポ調査説明会	30
16. 6. 20	野尻湖花粉グループ・地質グループ	15
16. 8. 4	市教委教職員課	47
16. 12. 5	近畿植物同好会	12
16. 12. 25	野尻湖花粉グループ	15
17. 1. 23	近畿地学会	15
17. 2. 13	近畿植物同好会	20
17. 2. 27	大阪石友会	15

■集会室 平成16年度 12件

年月日	団 体 名	人数
16. 4. 6	大阪シニア自然大学	35
16. 7. 6	大阪シニア自然大学	35
16. 7. 13	大阪シニア自然大学	35
16. 8. 4	市教委教職員課	47
16. 8. 24	大阪シニア自然大学	35
16. 12. 5	関西トンボ談話会	50
16. 12. 26	野尻湖花粉グループ	15
16. 12. 27	野尻湖花粉グループ	15
17. 1. 23	近畿植物同好会	60
17. 2. 6	関西トンボ談話会	30
17. 3. 20	近畿植物同好会	60
17. 3. 27	関西トンボ談話会	50

■実習室 平成16年度 3件

年月日	団 体 名	人数
16. 6. 5	タンボ調査近畿2005	30
16. 10. 17	大阪湾岸生物研究会	30
17. 1. 18	大阪シニア自然大学	30
17. 1. 25	大阪シニア自然大学	35

■講堂 平成16年度 28件

年月日	団 体 名	人数
16. 4. 4	大阪シニア自然大学	250
16. 4. 9	大阪シニア自然大学	150
16. 4. 11	大阪シニア自然大学	260
16. 4. 17	大阪シニア自然大学	260
16. 5. 7	大阪シニア自然大学	150
16. 5. 8	大阪シニア自然大学	260
16. 5. 19	チャイルドネット大阪	60
16. 5. 22	大阪シニア自然大学	260
16. 6. 4	大阪シニア自然大学	260
16. 6. 12	大阪シニア自然大学	260
16. 6. 13	日本自然保護協会	250
16. 6. 19	大阪シニア自然大学	250
16. 6. 26	大阪シニア自然大学	260
16. 7. 2	大阪シニア自然大学	160
16. 7. 8	大阪府立食と緑総合技術センター	200
16. 7. 9	ゆとりとみどり振興局	180
16. 7. 10	大阪シニア自然大学	260
16. 7. 24	大阪シニア自然大学	260
16. 8. 6	大阪シニア自然大学	130
16. 8. 10	大阪シニア自然大学	260
16. 8. 21	大阪シニア自然大学	260
16. 9. 3	大阪シニア自然大学	150
16. 9. 25	大阪シニア自然大学	260
16. 10. 9	大阪シニア自然大学	240
16. 10. 23	大阪シニア自然大学	250
16. 11. 23	府立高校生物教育研究会	70
17. 3. 1	大阪シニア自然大学	200
17. 3. 13	大阪シニア自然大学	250

VII. 施設

自然史博物館本館

- 所在地 大阪市東住吉区長居公園1番23号
- 敷地面積 6,743.68㎡
- 建築面積 4,392.67㎡
- 延床面積 7,066.01㎡
- 構造 鉄筋コンクリート造、一部屋根鉄骨造  
地下1階、地上3階
- 主要各室面積・天井の高さ  
(展示用施設) 計 2,427.48㎡

(天井の高さ)

オリエンテーションホール	550.35㎡	11.00m
第1展示室	360.55㎡	3.30m
第2展示室	486.64㎡	7.20m
第3展示室	403.10㎡	4.70m
第4展示室	100.00㎡	4.20m
特別展示室	260.55㎡	4.20m
2階ギャラリー	266.29㎡	6.80m
(研究用施設) 計	1,802.82㎡	
館長研究室・暗室	各18.27㎡	2.70m
動物・昆虫・植物・地史研究室	各47.56㎡	2.40m
第四紀・外来研究室	各36.54㎡	2.40m
生物実験室	49.20㎡	2.40m
化学分析室・サーバー室	各18.27㎡	2.40m
電子顕微鏡室	37.43㎡	2.70m
動物標本制作室	37.71㎡	2.40m
昆虫・植物標本制作室	各36.54㎡	2.40m
化石処理室	47.56㎡	2.40m
石工室	22.21㎡	2.70m
展示品製作室	28.05㎡	2.70m
第1収蔵庫	207.09㎡	3.00m
第2収蔵庫	310.08㎡	3.00m
第3収蔵庫	207.09㎡	3.00m
第4収蔵庫	310.08㎡	3.00m
書庫	100.30㎡	7.40m
編集記録室	36.54㎡	2.40m
(普及教育用施設) 計	604.27㎡	
講堂(映写室・控室含む)	319.09㎡	2.60m
		(平均)
普及センター	93.30㎡	2.70m
集会室	95.12㎡	2.70m

実習室	96.76㎡	2.70m
(管理用施設) 計	907.49㎡	
館長室	36.54㎡	2.70m
副館長室	18.27㎡	2.70m
事務室	83.34㎡	2.70m
応接室	29.54㎡	2.70m
更衣室	16.85㎡	2.55m
警備員室	17.64㎡	2.70m
会議室	47.56㎡	2.70m
機械室	472.35㎡	5.85m
電気室	89.92㎡	5.85m
自家発電電気室	49.16㎡	5.85m
旧中央監視盤室	28.05㎡	2.40m
(共通部分) 計	1,323.95㎡	
1階廊下	118.27㎡	2.70m
2階廊下	102.29㎡	2.40m
ロッカールーム	60.59㎡	2.85m
エレベーターホール(荷物用)	123.16㎡	
ファンルーム(南・北側)	各16.80㎡	
荷捌室	161.69㎡	2.70m
玄関ホール	125.10㎡	3.25m
オリエンテーションホール エレベーター	7.00㎡	
倉庫	106.56㎡	
1階ホール便所	76.26㎡	
2階ホール便所	37.56㎡	
管理棟便所	43.47㎡	
ダクトスペース	102.70㎡	
階段	179.30㎡	
その他	46.40㎡	
総計	7,066.01㎡	

■ 階数別面積

地階	855.07㎡	3階	550.95㎡
1階	3,178.35㎡	屋階	76.93㎡
2階	2,404.71㎡		

■ 各室定員

講堂	266人	集会室	48人
会議室	22人	実習室	31人
展示室(1階)	415人	展示室(2階)	400人
地階	3人		

■ 工期 昭和47年1月21日～昭和48年3月31日

■ 総事業費 10億1,000万円

(建設工事費)	7億9,500万円
・ 本体工事 (株竹中工務店)	4億9,200万円
・ 付帯工事	3億300万円
(設計監督委託料)	2,700万円
(その他)	3,800万円
事務費, 移転費, 公園樹木移設工事費	
ネットフェンス設置工事費等	
(内部設備費)	1億5,000万円
・ 第1展示室ディスプレイ(株日展)	2,200万円
・ 第2展示室ディスプレイ(株乃村工芸社)	2,500万円
・ 第3展示室ディスプレイ(株丹青社)	2,100万円
・ オリエンテーションホールディスプレイ	
(株電電広告)	600万円
・ 展示品購入費	3,200万円
・ 庁用器具, 調査, 研究用機器, 資料保管用物品等	
	4,400万円

■ 国庫補助金・起債

- ・ 国庫補助金 3,000万円 (47.10.13付交付決定)
- ・ 起債 3億8,762万円 (47.8.25付交付決定)

花と緑と自然の情報センター

■ 所在地 大阪市東住吉区長居公園1番23号

■ 敷地面積 1,203.81㎡

■ 建築面積 1,203.81㎡

■ 延床面積 5,000.00㎡

■ 構造 鉄骨鉄筋コンクリート造

地下1階, 地上2階塔屋付建物

■ 主要各室面積・天井の高さ

(展示用施設)	計	1,403.76㎡	
			(天井の高さ)
大阪の自然誌		638.82㎡	4.20m
ネイチャーホール		764.95㎡	7.00m
(研究用施設)	計	1,971.50㎡	
準備室兼置場(1)		47.99㎡	4.00m
準備室兼置場(2)		68.34㎡	4.00m
冷蔵庫室		21.99㎡	5.00m
資料前処理室		20.14㎡	4.00m
一般収蔵庫		748.34㎡	5.00m
特別収蔵庫		688.22㎡	5.00m
液浸収蔵庫		323.48㎡	5.00m
前室(1)		36.80㎡	4.00m
前室(2)		16.20㎡	4.00m

(普及教育用施設)	計	256.08㎡	
自然の情報センター		111.11㎡	5.00m
ミュージアムサービス		39.22㎡	5.00m
実習室		105.75㎡	3.00m
(管理用施設)	計	937.36㎡	
総合監視センター		32.78㎡	5.60m
空調機械室		116.93㎡	6.50m
機械室		722.99㎡	5.60m
E V機械室		49.08㎡	5.60m
技術スタッフ室		15.58㎡	3.00m
(共通部分)	計	431.30㎡	
地下1階廊下		28.74㎡	3.00m
1階廊下		48.30㎡	3.00m
1階渡り廊下		15.21㎡	3.00m
2階渡り廊下		15.21㎡	3.00m
プロムナード		28.00㎡	5.00m
2階便所		57.02㎡	2.50m
E V室		47.52㎡	2.90m
トラックヤード		88.13㎡	
階段		103.18㎡	
総計		5,000.00㎡	

■ 階数別面積

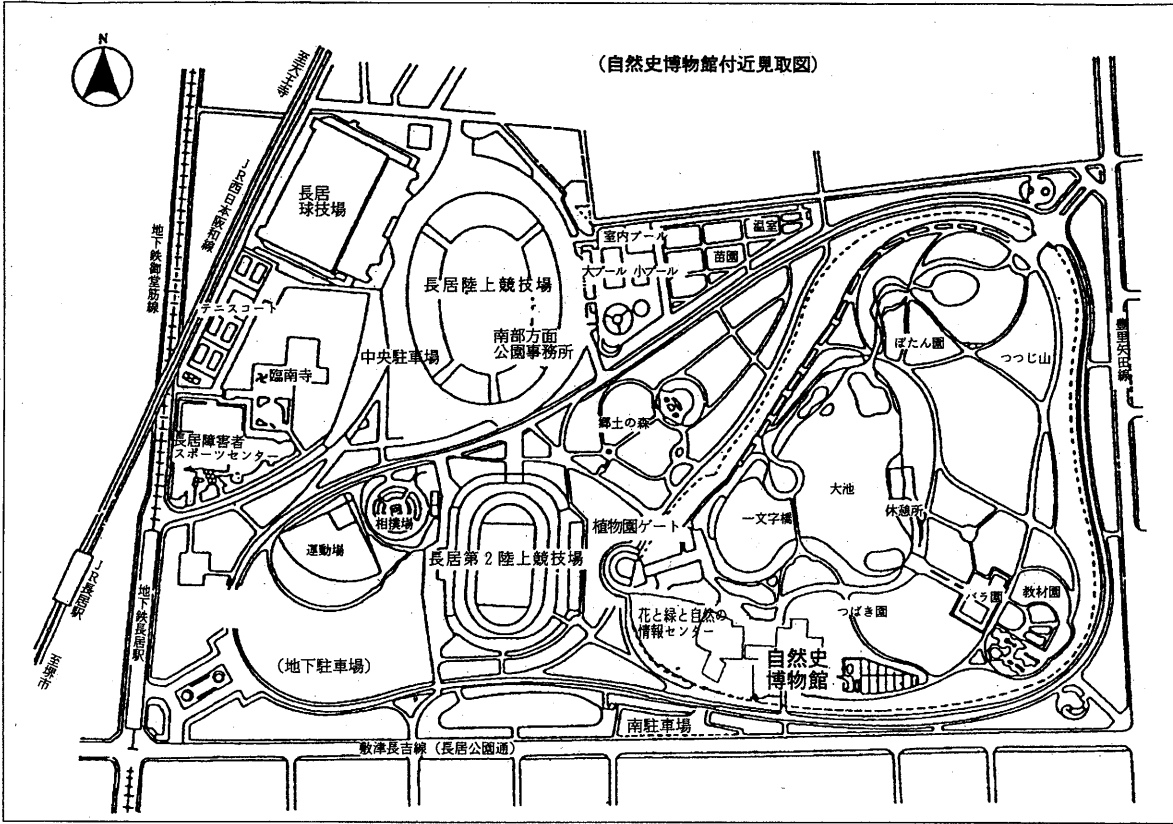
地階	2,754.07㎡
1階	1,203.81㎡
2階	993.04㎡
3階	49.08㎡

■ 工期 平成10年12月～平成13年3月

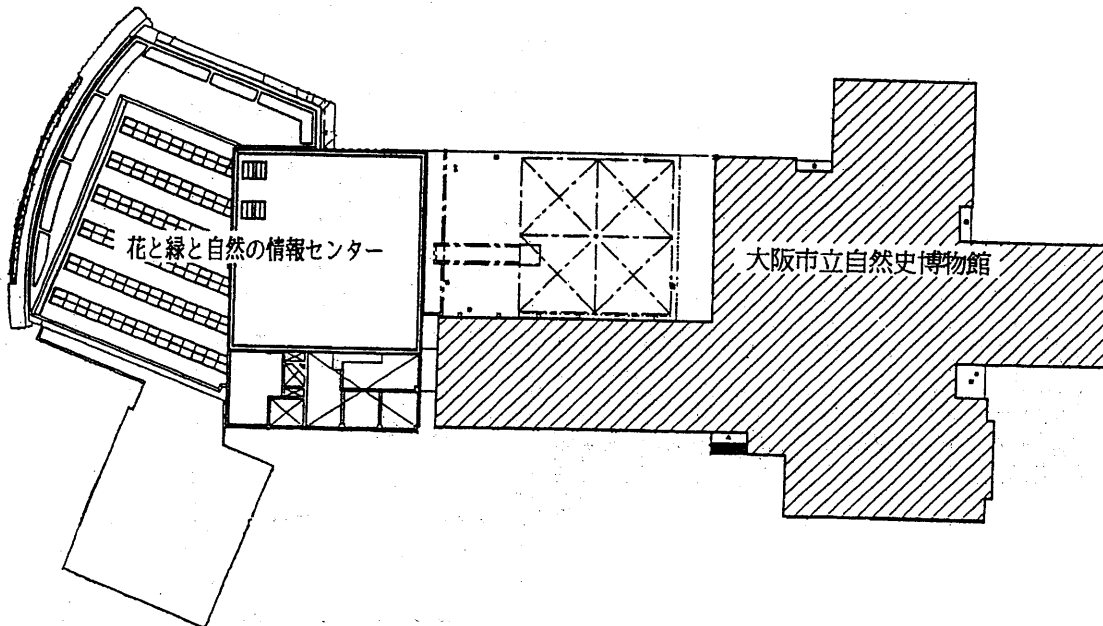
■ 総事業費	41億6,665万円
(建設工事費)	24億4,558万円
(設備工事費)	11億9,650万円
(設計監督委託料)	5,751万円
(外溝工事費他)	4億6,706万円

■ 起債等

- ・ 起債 34億7,477万3千円
- ・ 雑収(宝くじ協会) 3億6,001万7千円



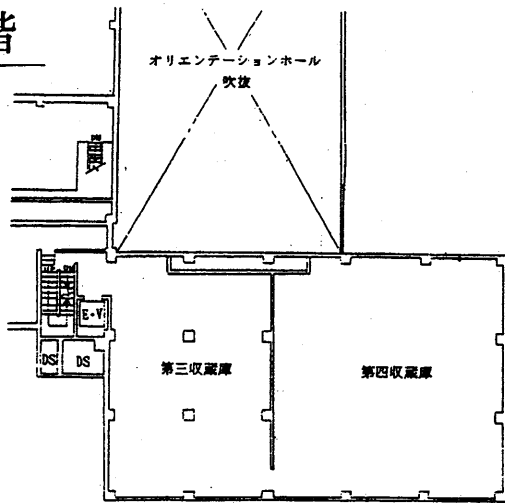
大阪市立自然史博物館・花と緑と自然の情報センター



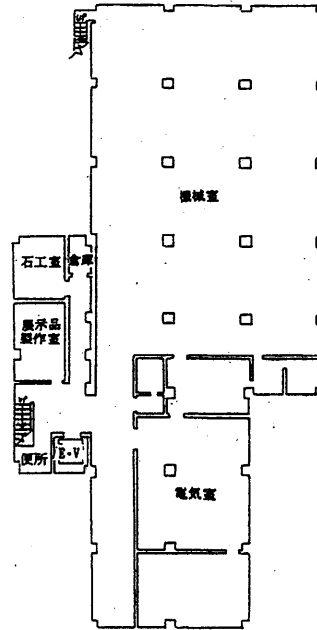




3階

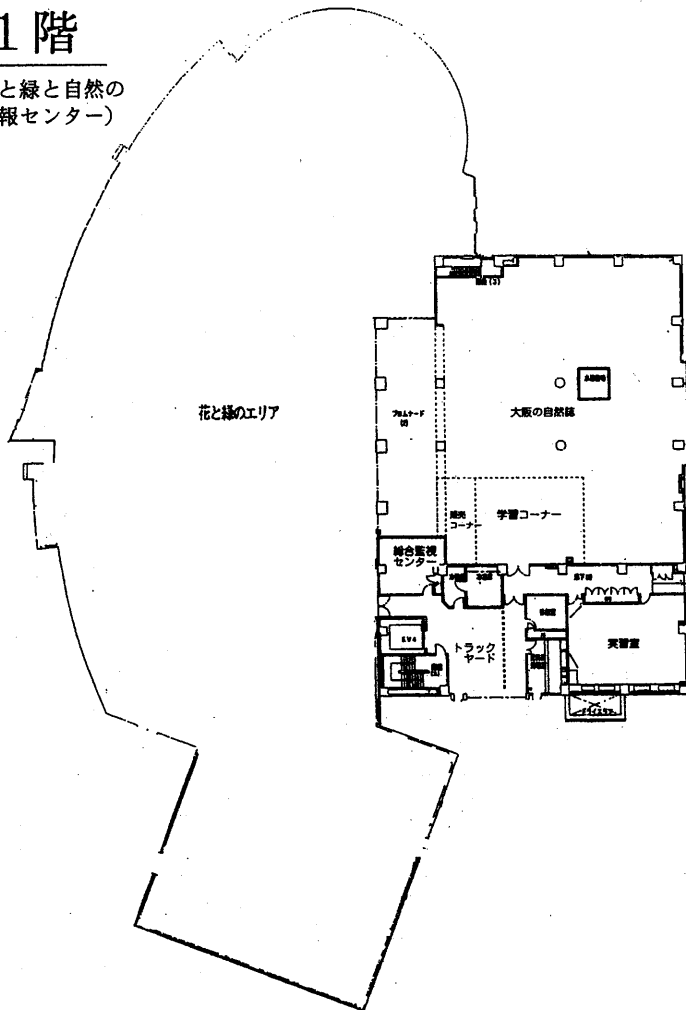


地下

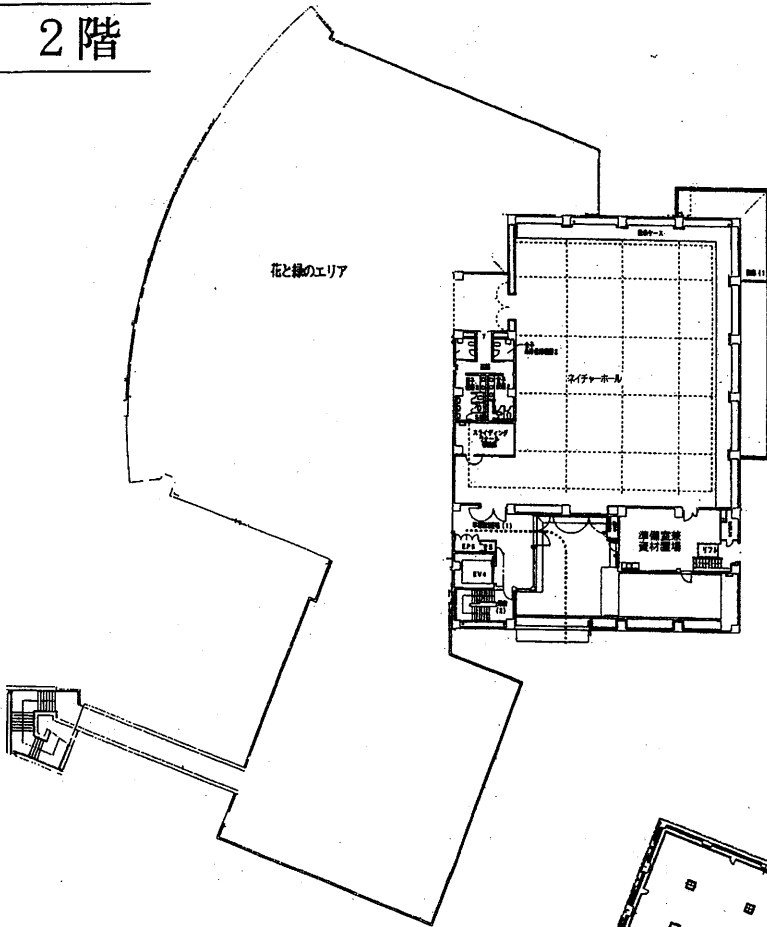


1階

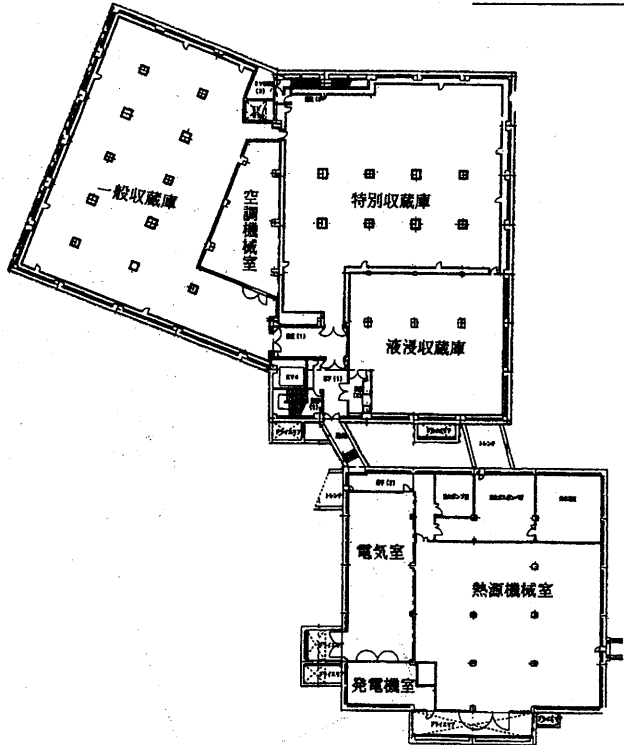
(花と緑と自然の  
情報センター)



2階



地下



○ 大阪市立自然史博物館条例

制 定 昭49. 4. 1 条例39

最近改正 平13. 4. 1 条例62

大阪市立自然科学博物館条例（昭和32年大阪市条例第38号）を次のように改正する。

大阪市立自然史博物館条例

（設置）

第1条 大阪市立自然史博物館（以下「博物館」という。）を大阪市東住吉区長居公園に設置する。

（目的）

第2条 博物館は、自然史に関する科学について、資料を収集し、保管し、展示するとともに、その調査研究及び普及指導を行い、市民の教養文化の向上に寄与することを目的とする。

（事業）

第3条 博物館は、前条の目的を達成するため、次に掲げる事業を行う。

- (1) 実物、標本、模型、文献、図書、図表、写真、フィルム等（以下「博物館資料」という。）の収集、保管、展示及び閲覧
- (2) 自然史に関する科学についての調査研究及び博物館資料の保管、展示等に関する技術的研究
- (3) 展覧会、講習会、実習会、研究集会等の開催及び指導
- (4) 博物館資料に関する同定及び指導
- (5) 博物館資料の貸出及び交換
- (6) 他の博物館、学校、学会その他の関係機関との連絡及び協力
- (7) その他の必要な事業

（観覧料）

第4条 博物館の常設展示場又は特別展示室に入場しようとする者は、観覧料を納付しなければならない。ただし、学校教育法（昭和22年法律第26号）第22条第1項に定める小学校就学の始期に達しない者、小学校（これに準ずるものを含む。）の児童及び中学校（これに準ずるものを含む。）の生徒は、この限りでない。

2 常設展示場の観覧料は、1人1回につき、次の表に掲げる金額の範囲内で教育委員会が定める。

区 分	観覧料
高等学校、大学その他教育委員会の定める教育施設に在学する者	200円
その他の者	300円

3 特別展示室の観覧料は、1人1回につき、1,200円以内で教育委員会が定める。

（施設の使用及び使用料）

第5条 自然史に関する科学についての展覧会、講演会、講習会その他に関し、博物館の特別展示室又は講堂を使用しようとする者は、教育委員会の許可を受けなければならない。

2 前項に規定する使用の許可を受けた者（以下「使用者」という。）は、1日につき、次の各号に掲げる施設の区分に応じ、当該各号に定める金額の範囲内で教育委員会定める額の使用料を前納しなければならない。

- (1) 特別展示室 32,000円
- (2) 講堂 17,000円

3 使用者が附属設備を使用しようとするときは、教育委員会が定める使用料を前納しなければならない。

（観覧料の減免）

第6条 教育委員会が公益上その他必要と認めるときは、観覧料又は使用料を減免することができる。

（観覧料の還付）

第7条 既納の観覧料又は使用料は還付しない。ただし、教育委員会が特別の事由があると認めるときは、その全部又は一部を還付することができる。

（職員）

第8条 博物館に、館長その他必要な職員を置く。

（施行の細目）

第9条 この条例の施行について必要な事項は、教育委員会が定める。

附 則（昭49. 4. 2 施行、告示120）

この条例の施行期日は、市長が定める。

附 則（昭51. 4. 1 条例61）

この条例は、公布の日から施行する。

附 則（昭55. 11. 27 条例48）

この条例は、公布の日から施行する。

附 則（昭56. 4. 1 条例53）

この条例は、公布の日から施行する。

附 則（昭61. 4. 1 条例50）

この条例は、公布の日から施行する。

附 則（平4. 4. 1 条例58）

この条例は、公布の日から施行する。

附 則（平7. 3. 16 条例40）

この条例は、平成7年5月1日から施行する。

附 則（平13. 4. 1 条例62、平13. 4. 27 施行、告示491）

この条例の施行期日は、市長が定める。

○ 大阪市立自然史博物館規則

制 定 昭49. 4. 26 (教) 規則12

最近改正 平13. 4. 27 (教) 規則20

大阪市立自然科学博物館規則(昭和32年大阪市教育委員会規則第16号)を次のように改正する。

大阪市立自然史博物館規則

(開館時間)

第1条 自然史博物館(以下「博物館」という。)の開館時間は、午前9時30分から、午後4時30分までとする。ただし、都合により変更することがある。

(休館日)

第2条 博物館の休館日は、次のとおりとする。ただし、都合により変更し、又は臨時に休館することがある。

- (1) 月曜日。ただし、その日が国民の祝日に関する法律(昭23年法律第178号)に規定する休日(以下「休日」という。)にあたる場合は、その翌日。
- (2) 12月28日から翌年1月4日まで

(入館の制限)

第3条 次の各号のいずれかに該当する者に対しては、入館を断り、又は退館させることがある。

- (1) 他人に危害を及ぼし、又は迷惑となる行為をするおそれがある者
- (2) 資料又は施設を損傷するおそれがある者
- (3) 他人に危害を及ぼし、若しくは他人に迷惑となる物品又は動物を携行する者
- (4) 管理上必要な指示に従わない者
- (5) その他教育委員会が管理上支障があると認める者

(観覧)

第4条 博物館の常設展示場又は特別展示室に入場しようとする者は、観覧料を納付して観覧券の交付を受けなければならない。

2 観覧券の交付は、閉館時刻の30分前までとする。

(観覧料)

第5条 大阪市立自然史博物館条例(昭和49年大阪市条例第39号。以下「条例」という。)第4条第2項の規定による観覧料は、1人1回につき、次表のとおりとする。

区 分	観覧料
高等学校、高等専門学校及び大学並びにこれに準ずる教育施設に在学する者	200円
その他の者	300円

2 条例第4条3項の規定による観覧料は、1人1回につき、1,200円以内でその都度教育長が定める。

(使用許可の申請)

第6条 条例第5条第1項の規定により特別展示室又は講堂(以下「施設」という。)の使用許可を受けようとする者は、所定の申請書に次に掲げる事項を記載してこれを教育委員会に提出しなければならない。

- (1) 申請者の氏名及び住所又は勤務先(団体にあつては、その名称、代表者の氏名及び主たる事務所の所在地)
- (2) 使用の日時
- (3) 使用の目的
- (4) 使用する施設及び附属設備
- (5) 特別の設備をしようとするときは、その内容
- (6) 入場者の予定人員
- (7) 入場料その他これに類する料金を徴収するときは、その金額
- (8) その他教育委員会が必要と認める事項

2 前項の規定により申請した事項を変更しようとするときは、あらかじめ許可を受けなければならない。

3 第1項の申請書は、次に定める期間内に提出しなければならない。ただし、教育委員会が特別の事由があると認めるときは、この限りでない。

- (1) 特別展示室の使用許可 使用期日の6月前の日から30日前まで
  - (2) 講堂の使用許可 使用期日の3月前の日から7日前まで
- (使用の制限)

第7条 次の各号のいずれかに該当するときは、施設の使用を許可しない。

- (1) 公安又は風俗を害するおそれがあるとき
- (2) 営利を目的とするとき
- (3) 建物、附属設備又は展示品を損傷するおそれがあるとき
- (4) 管理上支障があるとき
- (5) その他教育委員会が不適当と認めるとき

2 次の各号のいずれかに該当するときは、施設の使用の許可を取り消し、その使用を制限し、若しくは停止し、又は退館を命ずることがある。

- (1) 偽りその他不正の手段により条例第5条の許可を受けたとき
- (2) 前項各号に定める事由が発生したとき
- (3) 条例又はこの規則に違反し、条例又はこの規則に基

つく指示に従わないとき

(使用料)

第8条 条例第5条第2項に規定する使用料は、別表第1のとおりとする。

2 条例第5条第3項に規定する使用料は、別表第2のとおりとする。

(観覧料等の減免及び還付)

第9条 観覧料又は使用料(以下「観覧料等」という。)の減免及び還付は、教育長が行う。

2 観覧料等の減額又は免除は、次の各号に定めるところによる。

(1) 30人以上の団体で入場するときは、観覧料から次に掲げる額を減額することがある。

- ア 30人以上50人未満の団体 観覧料の1割
- イ 50人以上100人未満の団体 観覧料の2割
- ウ 100人以上の団体 観覧料の3割

(2) 常設展示場に入場する者が長居植物園の入場券を提示したときは、常設展示場の観覧料から長居植物園の入場料相当額を免除する。

(3) 前2号に定めるもののほか、教育長が公益上の必要その他特別の事由があると認めるときは、観覧料等を減額又は免除する。

(資料等の利用)

第10条 資料及び施設の利用については、教育長が定める。

(損害賠償)

第11条 資料又は施設を損傷又は滅失させた者は、教育委員会の指示によりこれを現状に復し、代物を弁償し、又はその損害を賠償しなければならない。

(資料等の寄贈及び寄託)

第12条 博物館に、資料等を寄贈若しくは寄託し、又は寄託物の返還を請求しようとする者は、教育委員会に申し出なければならない。

(寄託資料等の取扱い)

第13条 寄託を受けた資料等は、特別の契約がある場合のほか、本市所有のものと同じ取扱いをする。

(寄託資料等の免責)

第14条 寄託を受けた資料等が、災害その他の不可抗力によって滅失又は損傷した場合、本市は損害賠償の責めを負わない。

(施行の細目)

第15条 この規則の施行について必要な事項は、教育長が定める。

附 則

この規則は、昭和49年4月27日から施行する。

附 則(昭51. 4. 1(教)規則15)

この規則は、公布の日から施行する。

附 則(昭56. 4. 1(教)規則17)

1 この規則は、公布の日から施行する。

2 この規則の施行の際現に大阪市立自然史博物館条例(昭和49年大阪市条例第39号)第5条第1項の許可を受けている者の当該使用許可に係る使用料の額については、この規則による改正後の大阪市立自然史博物館規則第8条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則(昭61. 4. 1(教)規則10)

この規則は、公布の日から施行する。

附 則(平元. 4. 1(教)規則9)

1 この規則は、公布の日から施行する。

2 この規則の施行の際現に大阪市立自然史博物館条例(昭和49年大阪市条例第39号)第5条第1項の許可を受けている者の当該使用許可に係る使用料の額については、この規則による改正後の大阪市立自然史博物館規則第8条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則(平4. 4. 1(教)規則24)

1 この規則は、公布の日から施行する。

2 この規則の施行の際現に大阪市立自然史博物館条例(昭和49年大阪市条例第39号)第5条第1項の許可を受けている者の当該使用許可に係る使用料の額については、この規則による改正後の大阪市立自然史博物館規則第8条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則(平5. 4. 1(教)規則3)

この規則は、公布の日から施行する。

附 則(平7. 4. 1(教)規則18)

この規則は、平成7年5月1日から施行する。

附 則(平13. 4. 27(教)規則20)

この規則は、公布の日から施行する。

別表第1(第8条関係)

区 分	使 用 料		
	午 前	午 後	全 日
特別展示室			32,000円
講 堂	7,000円	10,000円	17,000円

備考

この表中「午前」とは午前9時30分から正午まで、「午後」とは午後1時から午後4時30分まで、「全日」とは

庶 務

午前 9 時30分から午後 4 時30分までとする。

別表第 2 (第 8 条関係)

区 分		使 用 料		
		午 前	午 後	全 日
特別 展 示 室	冷房設備			16,000円
	暖房設備			16,000円
講 堂	冷房設備	3,500円	5,000円	8,500円
	暖房設備	3,500円	5,000円	8,500円
	拡声装置	1式 午前、午後各1回につき 1,800円		
	マイク	1式 午前、午後各1回につき 500円		
	ワイヤレス マイク	1式 午前、午後各1回につき 1,100円		
	テープレ コーダー	1台 午前、午後各1回につき 900円		
	スライド映 写機(スク リーン付)	1台 午前、午後各1回につき 1,300円		
	16ミリ映写 機(スリー ン付)	1台 午前、午後各1回につき 4,200円		
	ビデオ装置	1式 午前、午後各1回につき 2,200円		

備考

この表中「午前」とは午前 9 時30分から正午まで、  
「午後」とは午後 1 時から午後 4 時30分まで、「全日」  
とは午前 9 時30分から午後 4 時30分までとする

○ 大阪市立自然史博物館観覧料等減免要綱

制 定 昭49. 4. 27

最近改正 平13. 4. 27

(趣旨)

第1条 この要綱は、大阪市立自然史博物館規則(昭和49年大阪市教育委員会規則第12号。以下「規則」という。)

第9条第2項第3号の規定による観覧料及び使用料(以下「観覧料等」という。)の減額及び免除に関し必要な事項を定めるものとする。

(観覧料の減額及び免除)

第2条 規則第9条第2項第3号による常設展示場及び特別展示室(以下「展示場」という。)の観覧料の減額及び免除は、次の各号に定めるとおりとする。

- (1) 教職員が、盲学校、聾学校又は養護学校の高等部の生徒を引率して展示場に入場するときは、当該教職員及び生徒の観覧料を免除する。
- (2) 教職員が、幼稚園(これに準ずるものを含む。)、小学校(これに準ずるものを含む。 )又は中学校(これに準ずるものを含む。)の園児、児童又は生徒を引率して展示場に入場するときは、当該教職員の観覧料を免除する。
- (3) 社会福祉施設(生活保護法(昭和25年法律第144号)第38条第1項、児童福祉法(昭和22年法律第164号)第7条、老人福祉法(昭和38年法律第133号)第5条の3、身体障害者福祉法(昭和24年法律第283号)第5条第1項又は知的障害者福祉法(昭和35年法律第37号)第5条第1項に規定する施設をいう。以下同じ。)の職員が、入所者(社会福祉施設に入所している者をいう。以下同じ。)を引率して展示場に入場するときは、当該職員、入所者及び入所者に同伴する入場者で当該入所者の介護を行うものの観覧料を免除する。
- (4) 身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保険福祉手帳、知的障害者(児)認定カード、戦傷病者手帳又は被爆者健康手帳(以下「身体障害者手帳等」という。)の交付を受けている者がこれを提示したときは、本人及び本人に同伴する入場者で本人の介護を行うものの観覧料を免除する。
- (5) 大阪市内に居住する者で65歳以上のものが、本市が発行したツルのマークの健康手帳又は敬老優待乗車証を提示したときは、観覧料を免除する。

2 前項第1項から第3項までの規定により観覧料の免除

を受けようとする者は、利用期日の当日までに第1号様式による大阪市立自然史博物館観覧料減免申請書を教育長に提出しなければならない。

(使用料の減額及び免除)

第3条 規則第9条第2項第3号による特別展示室及び講堂並びに附属設備の使用料の減額及び免除は、次の各号に定めるとおりとする。

- (1) 博物館が共催する行事で、学術振興又は普及教育に資すると認められるもの
- (2) 博物館の事業と関連を有する自然史に関する科学についての講演会、講習会その他で、学術振興に資すると認められるもの
- (3) 大阪市立自然史博物館友の会が主催する行事
- (4) 博物館法施行規則(昭和30年文部省令第24号)第1条の規定に基づく博物館実習

2 前項各号の規定により使用料の免除を受けようとする者は、規則第6条第1項による申請書を提出するときに第2号様式による大阪市立自然史博物館使用料減免申請書を教育長に提出しなければならない。

(その他の減免)

第4条 前2条に定めるもののほか、教育長が公益上その他特別の事由があると認めるときは、観覧料等を減額又は免除することがある。

附 則

この要綱は、平成13年4月27日から施行する。

自然史博物館に団体入館の時に入口で渡してください

様式 1

自然史博物館		使用欄			
決裁	課長		主査		係員
障害者・中学生以下の学校団体等引率者用					
大阪市立自然史博物館観覧料減免申請書 平成 年 月 日					
大阪市教育委員会教育長 様					
申請者 校 園 名 (団体名) 校 園 長 名 所 在 地 電 話 次の通り観覧料を免除下さるよう申請します。〔印不要〕					
目 的					
日 時	年 月 日 ( ) 午前・午後 時 分から				
引率責任者氏名					
引率者(減免)人数					名
生徒・園児・障害者・他人数( 学年)					名
合計人数					名
申請理由	大阪市立自然史博物館条例第 6 条及び同規則第 9 条による。				

様式 2

大阪市立自然史博物館使用料減免申請書

平成 年 月 日

大阪市教育委員会教育長 殿

申請者 団体名  
代表者名  
住 所  
電 話

下記の使用について、その使用料を免除下さるよう申請します。

使用年月日	平成 年 月 日 ( 曜日)		使用時間	午前 時 分～午前 時 分 午後 午後		参加人員	人
	種 別			数 量			
使用目的							
			午 前	午 後	全 日		
付 属 設 備	講 堂						
	冷 房 設 備						
	暖 房 設 備						
	拡 声 装 置						
	マ イ ク						
	ワイヤレスマイク						
	スライド映写機						
16 ミリ映写機							
ビ デ オ 装 置							

使用するにあたっては、大阪市立自然史博物館条例及び同規則を厳守し、かつ係員の指示に従い使用中に発生した一切の責任は、当方において負うことを誓約します。

注意事項

使用時間  
 午前……午前 9 時 30 分～正午  
 午後……午後 1 時～午後 4 時 30 分  
 全日……午前 9 時 30 分～午後 4 時 30 分  
 (準備と後片付けの時間は使用時間に含まれます)

自然史博物館		使用欄			
決裁	課長		主査		係員



○ 博物館実習生の受入れに関する運用方針

大阪市立自然史博物館

制定 平成7年2月1日

改定 平成13年3月10日

(目的)

- 1 この運用方針は、博物館法施行規則第1条の規定に基づき、大学からの博物館実習生の受入れについて、一定の規制基準をもうけ、当館の業務に支障のない範囲において受入れることを目的とする。

(受入の規制)

- 2 受入れの時期は夏期(7月後半～8月末)又は秋期(10月初～11月末)の期間中とし、1人当りの実習日数は5以内で、当館が指定する。
- 3 受入れ人数の総数は、年間20名以内とする。ただし、1大学については5名以内とする。
- 4 受講資格は、理科系・文科系を問わないが、大学において生物学又は地学関係の教科を履修し(一般教養でも可)、その単位を取得している者に限る。
- 5 実習の内容は、当館の概要説明、展示・施設見学、標本・資料の整理、並びに普及行事の補助などとする。

(受入れの願書)

- 6 博物館実習生受入れの依頼をする大学は、教務係又は博物館学の担当教官が、当館での実習を希望する学生を集約した上で、希望する時期及び希望者名を記した内諾伺文書を、当該年度の4月末までに、当館の博物館実習担当者宛に提出すること。

なお、学生個人からの依頼は受け付けない。

(受入れの諾否)

- 7 当館では上記の依頼について審査し、日程等を決定の上、5月中に諾否を回答する。

(その他)

- 8 大学において自然史に関係する分野を専攻し、当館においてその関連実技の習得を内容とした実習を受けようとする学生については、当館の当該分野の研究室又は学芸員の応諾があれば、上記とは別に受入れることがある。  
※各年度における実習日程については、当該年度4月までに、ホームページ上に掲載する。

○ 建物並びに館内展示室の写真撮影等に関する運用方針について

制 定 昭51.12.  
改 正 昭54. 7.  
最近改正 昭62.12.

決裁	庶務課長	主 査	係 員
年 月 日			
	学芸課長	主任学芸員	学 芸 員

(目的)

- この運用方針は、建物並びに館内展示室の写真・テレビ撮影等（以下「撮影等」という。）について一定の規制基準をもうけ、観覧者の利便と展示資料の損傷防止をはかることを目的とする。

(撮影等の規制)

- 個人使用を目的とした撮影等は、入園入館者のさまたげにならず、かつ、建物・展示資料の損傷にならない限り規制しない。
- 純然たる商業目的で撮影等をする場合は禁止する。ただし、当館の社会教育施設としての普及、宣伝に十分効果があると認められる場合はこの限りでない。

(撮影等の許可願)

- 前項ただし書き、ならびに大型機材等（照明装置、テレビカメラ等）を使用する場合は、別紙様式により届出、許可を受けなければならない。

(許可条件)

- 前項により許可を受けた者は、次の条件を遵守しなければならない。
  - 入園、入館者のさまたげにならず、かつ、建物、展示資料を損傷させないこと。
  - 撮影した写真等の使用は、今回の許可願の事項に限ること。
  - 撮影した写真等の使用にあたっては、必ず当館の館名を明示するとともに、当館の利用案内をすること。
  - 写真掲載紙等は、当館に1部提出すること。
  - その他詳細については、当館と打ち合わせすること。
- 当館が提供する資料等の使用についても、この方針を適用する。

写真・テレビ撮影等許可願		平成 年 月 日
大阪市立自然史博物館長 様		
所 在 地		
会社・団体名		
代表者氏名印		
(担当者: )		
(電話番号: )		
次のとおり、写真・テレビ撮影等を許可くださるようお願いします。		
日 時	平成 年 月 日 ( ) 時 分～ 時 分	
目 的		
撮影場所・資料等		
人数・使用機材		
(テレビの場合)		
放 映 日 時		
番 組 名		
タ イ ト ル		
(写真の場合)		
掲 載 紙 名		
記 事 タ イ ト ル		
著 者 名		
発 行 者 名		
発 行 年 月 日		

写真・テレビ撮影等許可書		平成 年 月 日
様		
大阪市立自然史博物館 館 長		
平成 年 月 日付で申請のあった「写真・テレビ撮影許可願」について次のとおり許可します。		
日 時	平成 年 月 日 ( ) 時 分～ 時 分	
目 的		
撮影場所・資料等		
人数・使用機材		
(許可条件)		
(1) 入園・入館者のさまたげにならず、かつ、建物・展示資料を損傷させないこと。		
(2) 撮影した写真等の使用は、今回の許可願の事項に限ること。		
(3) 撮影した写真等の使用にあたっては、必ず当館の館名を明示するとともに、当館の利用案内をすること。		
(4) 写真掲載紙等は、当館に1部提出すること。		
(5) その他詳細については、当館と打ち合わせすること。		

## ○ 外部研究者の受入れに関する要綱

大阪市立自然史博物館  
制定 平成12年4月1日

### 第1条(目的)

自然史科学及び博物館学の発展に寄与するため、大阪市立自然史博物館(以下「当館」という。)の設備及び収蔵資料の外部研究者による利用を促進する要綱を定める。

ただし、「博物館実習」単位取得のための利用、及び会議室、集会室、実習室、講堂の部屋利用については別に定める。

### 第2条(定義)

当館の外部研究者とは、以下に掲げる者とする。いずれも自然史科学、博物館学及びその周辺分野の研究を目的とする者でなければならない。

#### (1) 一時利用者

研究上の目的で、当館の施設及び標本を一時的に利用する者。

#### (2) 長期利用者

継続的に当館を利用する研究者で、次の各号に掲げる者とする。

##### ・ 外来研究員

大学、研究機関、教育機関、博物館などで当該分野に関する研究歴を持つ者、又は学会で当該分野における研究実績が認められる者。

##### ・ 研究生

大学卒業論文作成年次の学生、大学院生、一般社会人などで、当館の設備及び収蔵資料などを利用した研究を、当館学芸員の指導の下に行おうとする者。

##### ・ 共同研究員

当館の総合研究、グループ研究に参加する者。

### 第3条(期間)

長期利用者の利用期間はそれぞれ次の通りとする。

#### (1) 外来研究員

原則として毎年4月1日から翌年3月31日までの1年間。

#### (2) 研究生・共同研究員

研究計画に必要と認められる期間。

### 第4条(手続き)

#### (1) 一時利用者

一時利用を希望する者は、予め担当学芸員(利用し

ようとする標本又は設備を管理する学芸員)から内諾を得た上、利用当日、受付において申し出て、所定の利用票(様式1)に記入する。

#### (2) 長期利用者

長期利用を希望する者は、所属機関の長又は指導教官を通じて、所定の書式により、利用申請書(様式2、大学生・大学院生は推薦書1通を添付)を館長あてに提出する。

なお、機関に属しない者については、直接の申請ができることとする。(様式3)。

申し込み期限は利用開始の前々月15日とする。(外来研究員については前年度2月15日)。

### 第5条(許諾)

前条の申し込みについての許諾は、館内の選考委員会による審議を経て、館長が決定する。

### 第6条(経費)

当館は、外来研究者の施設利用に対して、経費を徴収することはしない。ただし、高額を要する一部機器の運用経費、消耗品費等については関係者で協議の上、決定する。

### 第7条(報告)

長期利用者は、研究期間終了後、速やかにその研究状況及び成果を記載した研究成果報告書を館長に提出しなければならない。

### 第8条(成果)

外部研究者が研究成果を発表する場合は、当館の設備や収蔵資料を利用した旨を明記しなければならない。また、印刷発表後は、すみやかに当該印刷物又はその複写物を館長に提出しなければならない。

### 第9条(変更・中止)

長期利用者が研究計画の変更を生じ、利用を中止する場合は、すみやかに館長に届け出なければならない。

### 第10条(資格の取消し)

外部研究者がこの要綱に定められた事項を遵守しない場合、あるいは外部研究者としてふさわしくない事象が生じた場合には、館長はその資格を取り消すことができる。

庶 務

様式1

№ \_\_\_\_\_

大阪市立自然史博物館 研究設備・機器、収蔵資料  
一時利用票

本票は当館の「外部研究者受入れに関する要綱」に基づき、当館の研究設備・機器あるいは収蔵資料の一次的な利用について、予め担当学芸員の内諾を得た者が、当日受付において配布を受けるものです。記入の上、担当学芸員に提出してください。

利 用 日	平成 年 月 日		
目 的			
利用する設備・機器、 収蔵資料			
利 用 者	氏 名	所属または住所	電話連絡先
担当学芸員名			

決 裁	館 長	副 館 長	庶務課長	学芸課長	副 参 事	係 員	学 芸 員

様式3

大阪市立自然史博物館 長期利用申請書

大阪市立自然史博物館長 様

平成 年 月 日

(本人)

住 所 \_\_\_\_\_

電 話 \_\_\_\_\_

氏 名 \_\_\_\_\_ 印

貴館における研究を下記の通り実施させていただきたく、貴館の「外部研究者の受入れに関する要綱」により申請いたします。

利用形態	外来研究員 ・ 研究生 ・ 共同研究員 (○で囲む)
研究課題	
研究期間	
実施計画	
使用する設備・機器、 収蔵資料	

様式2

大阪市立自然史博物館 長期利用申請書

大阪市立自然史博物館長 様

平成 年 月 日

(所属機関の長または指導教官)

所属機関 \_\_\_\_\_

所 在 地 \_\_\_\_\_

電 話 \_\_\_\_\_

姓 名 \_\_\_\_\_

氏 名 \_\_\_\_\_ 印

貴館における研究を下記の通り実施させていただきたく、貴館の「外部研究者の受入れに関する要綱」により申請いたします。

利用形態	外来研究員 ・ 研究生 ・ 共同研究員 (○で囲む)
研 究 者	所属部局(教室)、職名(学生)、電話連絡先
	氏 名
研究課題	
研究期間	
実施計画	
使用する設備・機器、 収蔵資料	



---

# ANNUAL REPORT

of the

Osaka Museum of Natural History

for the fiscal year of 2004

Nagai Park, Higashi-sumiyoshi-ku, Osaka, 546-0034 Japan

---

Issued : March 31, 2006